

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant : Shunpei Yamazaki et al. Art Unit : Unknown
Serial No. : New Application Examiner : Unknown
Filed : March 15, 2004
Title : A DISPLAY DEVICE AND AN ELECTRONIC APPARATUS USING THE SAME

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

TRANSMITTAL OF PRIORITY DOCUMENTS UNDER 35 USC §119

Applicants hereby confirms their claim of priority under 35 USC §119 from the following application(s):

Japan Application No. 2003-105923 filed April 9, 2003

Japan Application No. 2003-108484 filed April 11, 2003

A certified copy of each application from which priority is claimed is submitted herewith.

Please apply any charges or credits to Deposit Account No. 06-1050.

Respectfully submitted,

Date: March 15, 2004


John F. Hayden
Reg. No. 37,640

Customer No. 26171
Fish & Richardson P.C.
1425 K Street, N.W., 11th Floor
Washington, DC 20005-3500
Telephone: (202) 783-5070
Facsimile: (202) 783-2331

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日 2003年 4月 9日
Date of Application:

出願番号 特願2003-105923
Application Number:

[ST. 10/C] : [JP2003-105923]

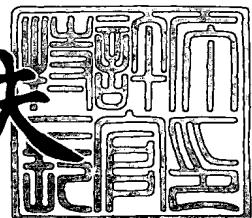
出願人 株式会社半導体エネルギー研究所
Applicant(s):

（略）

2004年 2月 4日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 P007087

【提出日】 平成15年 4月 9日

【あて先】 特許庁長官 殿

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県厚木市長谷398番地 株式会社半導体エネルギー研究所内

【氏名】 山崎 舜平

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県厚木市長谷398番地 株式会社半導体エネルギー研究所内

【氏名】 小山 潤

【特許出願人】

【識別番号】 000153878

【氏名又は名称】 株式会社半導体エネルギー研究所

【代表者】 山崎 舜平

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 002543

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 表示装置およびそれを用いた電子機器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

透光性基板上に形成された発光素子の発光を、前記透光性基板側及びその反対側の方向に放射させて、第1の表示面と、第2の表示面とを形成可能な表示装置であって、前記第1の表示面に形成される第1の表示画面と、前記第2の表示面に形成される第2の表示画面との大きさは等しいことを特徴とする表示装置。

【請求項 2】

透光性基板上に形成された発光素子の発光を、前記透光性基板側及びその反対側の方向に放射させて、第1の表示面と、第2の表示面とを形成可能な表示装置であって、前記第1の表示面に形成される第1の表示画面と、前記第2の表示面に形成される第2の表示画面より大きいことを特徴とする表示装置。

【請求項 3】

透光性基板上に形成された発光素子の発光を、前記透光性基板側及びその反対側の方向に放射させて、第1の表示面と、第2の表示面とを形成可能な表示装置であって、第1の表示面または第2の表示面のいずれか一方に複数の表示画面を形成したことを特徴する表示装置。

【請求項 4】

請求項1乃至請求項3のいずれか一項において、前記発光素子は、白色光を放射し、前記第1の表示面側にはカラーフィルタが備えられていることを特徴とする表示装置。

【請求項 5】

請求項1乃至請求項3のいずれか一項において、前記第1の表示面及び前記第2の表示面は、異なる発光色を呈する複数の発光素子で構成されたものであることを特徴とする表示装置。

【請求項 6】

請求項1乃至請求項3のいずれか一項において、前記第1の表示画面と、前記第2の表示画面との走査方向は、互いに異なることを特徴とする表示装置。

【請求項 7】

請求項 6 において、前記第 1 の表示画面と、前記第 2 の表示画面とは信号線駆動回路を共有し、前記信号線駆動回路は走査方向を変える切り替え手段を有することを特徴とする表示装置。

【請求項 8】

請求項 6 において、揮発性記憶手段と、前記揮発性記憶手段に記憶されたデータの読み出し順序を変える切り替え手段を有することを特徴とする表示装置。

【請求項 9】

請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか一項において、前記第 1 の表示面と、第 2 の表示面とは、偏光方向が異なる、少なくとも 2 枚の偏光板により挟まれていることを特徴とする表示装置。

【請求項 10】

請求項 2 または請求項 3 において、前記第 1 の表示画面及び前記第 2 の表示画面に延在する複数の信号線を、任意に選択して映像信号を出力可能とした信号線駆動回路が備えられていることを特徴とする表示装置。

【請求項 11】

請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか一項において、前記第 1 の表示画面及び第 2 の表示画面のいずれか一方又は双方に光電変化素子が備えられていることを特徴とする表示装置。

【請求項 12】

第 1 の筐体と第 2 の筐体とを開閉自在に連結した電子機器であって、透光性基板上に形成された発光素子の発光を、前記透光性基板側及びその反対側の方向に放射させて、第 1 の表示面と、第 2 の表示面と、を形成可能な表示手段を前記第 1 の筐体に装着し、前記第 1 の筐体と、前記第 2 の筐体との角度に応じた信号を検出する手段と、前記検出手段の出力信号に応じて、前記表示手段の走査方向を変える切り替え手段とを有することを特徴とする電子機器。

【請求項 13】

透光性基板上に形成された発光素子の発光を、前記透光性基板側及びその反対側の方向に放射させて、第 1 の表示面と、第 2 の表示面とを形成可能な表示手段を

備えた電子機器であって、前記第1の表示面に形成される第1の表示画面と、前記第2の表示面に形成される第2の表示画面との大きさは等しいことを特徴とする電子機器。

【請求項14】

透光性基板上に形成された発光素子の発光を、前記透光性基板側及びその反対側の方向に放射させて、第1の表示面と、第2の表示面とを形成可能な表示手段を備えた電子機器であって、前記第1の表示面及び前記第2の表示面のいずれか一方に、複数の表示画面を形成したことを特徴とする電子機器。

【請求項15】

請求項12乃至請求項14のいずれか一項において、前記電子機器はパーソナルコンピュータであることを特徴とする電子機器。

【請求項16】

請求項12乃至請求項14のいずれか一項において、前記電子機器はビデオカメラであることを特徴とする電子機器。

【請求項17】

請求項12乃至請求項14のいずれか一項において、前記電子機器はデジタルカメラであることを特徴とする電子機器。

【請求項18】

請求項12乃至請求項14のいずれか一項において、前記電子機器は携帯コミュニケーションツールであることを特徴とする電子機器。

【請求項19】

自発光型発光装置を用いた電子機器において、前記電子機器を充電時に表示画面を発光させる発光手段を有することを特徴とする電子機器。

【請求項20】

請求項19において、前記発光手段は表示画面を全点灯させる発光手段であることを特徴とする電子機器。

【請求項21】

請求項19において、前記発光手段は表示画面に、通常画面の明暗を反転させた画面を表示させる手段であること特徴とする電子機器。

【請求項22】

請求項19において、前記発光手段は表示画面に、劣化の多い画素を選んで点灯させる発光手段であることを特徴とする電子機器。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、表示装置に関し、特に両面発光機能を有する表示装置に関する。また、両面発光機能を有する表示装置を含んだ電子機器に関する。

【0002】**【従来の技術】**

近年、通信技術の進歩に伴って、携帯電話が普及している。今後は更に動画の伝送やより多くの情報伝達が予想される。一方、パソコン用コンピューター（P C）もその軽量化によって、モバイル対応の製品が生産されている。電子手帳に始まったP D Aと呼ばれる情報端末も多数生産され普及しつつある。また、表示装置の発展により、それらの携帯情報機器のほとんどにはフラットパネルディスプレイが装備されている。

【0003】

また、アクティブマトリクス型の表示装置の中でも、近年、低温ポリシリコン薄膜トランジスタ（以下薄膜トランジスタをT F Tと表記する）を用いた表示装置の製品化が進められている。低温ポリシリコンT F Tでは画素だけでなく、画素部の周囲に信号線駆動回路を一体形成することができるため、表示装置の小型化や、高精細化が可能であり、今後はさらに普及が見込まれる。

【0004】

また、携帯用P Cとして、タブレットP Cが開発されている。図2に示すようにタブレットP Cは第1の筐体201、第2の筐体202、キーボード203、パッド204、タッチセンサー機能を備えた表示部205、回転軸206、タッチペン207より構成されている。このようなタブレットP Cでは図2（A）に示すように、キーボード203を使用する場合には、通常のノートP Cと同様にディスプレイを見ながら、キーボードをたたくことが可能である。そして、タッ

チセンサー機能付き表示部とタッチペン207によって、キーボード203を使わず、文字や情報を直接入力する場合には、第1の筐体201を複雑に回転させ、キーボード203上にかぶせることにより、図2（B）のようにしてタッチペン入力をおこなっている。

【0005】

一方、携帯電話では形状がバータイプのものから、折りたたみ型のものに代わってきている。このような折りたたみ型の携帯機器に用いられるディスプレイは1つのみならず、2つのディスプレイを用いるものが多く開発されている。図3（A）は折りたたみ型携帯電話の内側、（B）は外側、（C）は側面を示している。折りたたみ型の携帯電話は第1の筐体301、第2の筐体302、第1の表示部303、第2の表示部304、スピーカー306、アンテナ307、ヒンジ308、キーボード309、マイク310、バッテリー311によって構成されている。このようにメインディスプレイ（第1の表示部303）のほかにサブディスプレイ（第2の表示部304）を設け、メインディスプレイを見なくても時間、バッテリー蓄電状況、受信状態などがサブディスプレイにて表示可能になっている。（例えば特許文献1参照）

【0006】

【特許文献1】

特開2001-285445号

【0007】

【発明が解決しようとする課題】

前述した従来のタブレットPCでは、一つの表示部を異なる状態で使用するため、第1の筐体を、回転軸を中心として複雑に回転させる必要があり、機械的な信頼性が単なるヒンジを用いたものより低くなり、寿命が短くなるという問題があった。

【0008】

また、前述したメインディスプレイとサブディスプレイの両方を持つ携帯電話では、それぞれのディスプレイを制御するための制御回路が必要になるため部品点数が増加し、コストアップおよび体積の増加を招いていた。また、2つのディ

スプレイを有するため、第1の筐体の厚さが厚くなり、やはり携帯電話の体積を増加させていた。

【0009】

以上のような問題を鑑み本発明では2つの表示面を有し、且つ部品点数や体積を増加させない表示装置、機械的な信頼性を低下させない表示装置、およびそれらを用いた電子機器を提供することを課題とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】

以上のような問題を解決するため、本発明者らは、両面発光可能なディスプレイを用い、メインディスプレイおよびサブディスプレイの両方の機能をおこなうものである。また、両面発光ディスプレイを用いることによって、複雑な回転軸を必要とせず信頼性の高い電子機器を実現するものである。

【0011】

以下に本発明の構成を示す。

【0012】

本発明は透光性基板上に形成された発光素子の発光を、前記透光性基板側及びその反対側の方向に放射させて、第1の表示面と第2の表示面とを形成可能な表示装置であって、前記第1の表示面に形成される第1の表示画面と、前記第2の表示面に形成される第2の表示画面との大きさは等しいことを特徴としている。

【0013】

本発明は透光性基板上に形成された発光素子の発光を、前記透光性基板側及びその反対側の方向に放射させて、第1の表示面と第2の表示面とを形成可能な表示装置であって、前記第1の表示面に形成される第1の表示画面と、前記第2の表示面に形成される第2の表示画面より大きいことを特徴としている。

【0014】

本発明は透光性基板上に形成された発光素子の発光を、前記透光性基板側及びその反対側の方向に放射させて、第1の表示面と第2の表示面とを形成可能な表示装置であって、第1の表示面または第2の表示面のいずれか一方に複数の表示画面を形成したことを特徴としている。

【0015】

本発明は上記において、前記発光素子は、白色光を放射し、前記第1の表示面側にはカラーフィルタが備えられていることを特徴としている。

【0016】

本発明は上記において、前記第1の表示面及び前記第2の表示面は、異なる発光色を呈する複数の発光素子で構成されたものであることを特徴としている。

【0017】

本発明は上記において、前記第1の表示画面と前記第2の表示画面との走査方向は、互いに異なることを特徴としている。

【0018】

本発明は上記において、前記第1の表示画面と前記第2の表示画面とは信号線駆動回路を共有し、前記信号線駆動回路は走査方向を変える切り替え手段を有することを特徴としている。

【0019】

本発明は上記において、揮発性記憶手段と、前記揮発性記憶手段に記憶されたデータの読み出し順序を変える切り替え手段を有することを特徴としている。

【0020】

本発明は上記において、前記第1の表示面と、第2の表示面とは、偏光方向が異なる、少なくとも2枚の偏光板により挟まれていることを特徴としている。

【0021】

本発明は上記において、前記第1の表示画面及び前記第2の表示画面に延在する複数の信号線を、任意に選択して映像信号を出力可能とした信号線駆動回路が備えられていることを特徴としている。

【0022】

本発明は上記において、前記第1の表示画面及び第2の表示画面のいずれか一方又は双方に光電変化素子が備えられていることを特徴としている。

【0023】

本発明は第1の筐体と第2の筐体とを開閉自在に連結した電子機器であって、透光性基板上に形成された発光素子の発光を、前記透光性基板側及びその反対側

の方向に放射させて、第1の表示面と第2の表示面とを形成可能な表示手段を前記第1の筐体に装着し、前記第1の筐体と、前記第2の筐体との角度に応じた信号を検出する手段と、前記検出手段の出力信号に応じて、前記表示手段の走査方向を変える切り替え手段とを有することを特徴としている。

【0024】

本発明は透光性基板上に形成された発光素子の発光を、前記透光性基板側及びその反対側の方向に放射させて、第1の表示面と第2の表示面とを形成可能な表示手段を備えた電子機器であって、前記第1の表示面に形成される第1の表示画面と、前記第2の表示面に形成される第2の表示画面との大きさは等しいことを特徴としている。

【0025】

本発明は透光性基板上に形成された発光素子の発光を、前記透光性基板側及びその反対側の方向に放射させて、第1の表示面と第2の表示面とを形成可能な表示手段を備えた電子機器であって、前記第1の表示面及び前記第2の表示面のいずれか一方に、複数の表示画面を形成したことを特徴としている。

【0026】

本発明は上記において、前記電子機器はパーソナルコンピュータであることを特徴としている。

【0027】

本発明は上記において、前記電子機器はビデオカメラであることを特徴としている。

【0028】

本発明は上記において、前記電子機器はデジタルカメラであることを特徴としている。

【0029】

本発明は上記において、前記電子機器は携帯コミュニケツールであることを特徴としている。

【0030】

本発明は自発光型発光装置を用いた電子機器において、前記電子機器を充電時

に表示画面を発光させる発光手段を有することを特徴とする電子機器。

【0031】

本発明は上記において、前記発光手段は表示画面を全点灯させる発光手段であることを特徴としている。

【0032】

本発明は上記において、前記発光手段は表示画面に通常画面の明暗を反転させた画面を表示させる手段であることを特徴としている。

【0033】

本発明は上記において、前記発光手段は表示画面に劣化の多い画素を選んで点灯させる発光手段であることを特徴としている。

【0034】

以上によって、コストや体積を増加させず、機械的な信頼性を低下させない2つの表示面を有する表示装置が達成でき、小型、ローコスト、高信頼性の電子機器を実現することができる。

【0035】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施形態を、図1を用いて説明する。図1（A）は本発明の表示装置を第一の表示面から見た図であり、図1（B）は第2の表示面から見た図であり、図1（C）は側面から見た図である。図1において、本発明の表示装置は透明基板101、102によって構成されている。105～108は表示部分であり、第1の表示面には表示画面105が、第2表示面には表示画面106～108が存在する。表示画面105～108を駆動する駆動回路は103、104であり、透明基板101上にTFTによって構成されている。駆動回路103、104は透明基板101に接続されたFPC（フレキシブル・プリント・サーキット）109、110より、映像信号、制御信号を入力され表示画面105～108を駆動する。

【0036】

第1の表示面上の表示画面105は概ね表示面全体を使用して、表示を行っている。一方第2の表示面上の表示画面106～108は第2の表示面の一部を占

め、表示を行う。このような表示をおこなうことによって、表示画面105をメインディスプレイ用表示画面として、表示画面106～108をサブディスプレイ用表示画面として使用することが可能になる。図1（B）に示した例では、表示画面106に電子メールの受信内容を、表示画面107に電波の受信状況を、表示画面108に時刻を表示しているが、表示内容はこれらに限定されず、他の表示をおこなっても何ら問題はない。また、図1（B）ではサブディスプレイ用表示画面を3個としているが、その個数も3個に限定されず、1個以上の任意の数とすることができます。

【0037】

また、第2の表示面のうち、表示に寄与しない部分はそのまま黒表示をおこなっても良いし、ブラックマトリクスなどを設けても良いし、表示装置を筐体にいれるときに、筐体の材料で覆ってしまっても良い。

【0038】

尚、サブディスプレイ用表示画面の数、形状、大きさは図1に示した内容に限定されず、任意に設定することが可能である。また、メインディスプレイ用表示画面の発光色も任意に設定することができる。例えば、表示装置の発光素子を白発光素子とし、メインディスプレイ用表示画面にはカラーフィルタを用いてフルカラー表示をおこない、サブディスプレイ用表示画面にはカラーフィルタを用いず、白発光としても良い。また、発光素子を色塗り分けされた発光素子としても良い。

【0039】

以上において、本発明の表示装置では駆動回路を内蔵したものとして説明をおこなったが、駆動回路は内蔵に限らず、LSIをTABでは装着しても良いし、透明基板上に直接チップを貼り付けても良い。また、表示部分はポリシリコン TFTを用いたアクティブマトリクスに限らず、アモルファスTFTを用いたアクティブマトリクス、パッシブマトリクスであっても良い。

【0040】

図18は本発明の両面発光装置の概念を示したものである。図18では2つの透明基板1801、1802の間に透明電極またはそれに準ずる電極1803～

1805、1809が存在し、それらの電極間に発光体1806～8を挟んでいる。透明基板1801にはカラーフィルタ1810～1812が配置され、発光体1806～1808が白発光の場合には第1の発光面にはフルカラー表示が、第2の発光面には白表示が可能となる。カラーフィルタを用いずに発光体を色塗り分けしても良い、その場合第1の発光面と第2の発光面に表示できる色は同じとなる。発光体にはエレクトロルミネッセンス（EL）素子を代表とする発光素子を用いる。このような構造をとることによって、上記の両面発光表示装置を実現する。

【0041】

図4は本発明をタブレットPCに使用した実施形態である。図4について以下説明をおこなう。タブレットPCは第1の筐体401、第2の筐体402、2つの筐体を接続するヒンジ409、410、キーボード403、パッド404、メインディスプレイ用表示画面405、サブディスプレイ用表示画面406～408、タッチペン411より構成されている。サブディスプレイ用表示画面406において、従来例に示したようなタッチセンサー機能を施すことによって、ユーザーはタッチペン411を用いて、タブレット機能を享受することが可能になる。

【0042】

従来例では、上述したように従来のタブレットPCでは1つの表示部しかもたない表示装置を、回転軸を中心に回転させ、メインディスプレイとタブレット用ディスプレイを兼用させていたが、図4に示す実施形態では、図1に示すような本発明の表示装置を使用することによって、従来例のような複雑な回転軸を用いた構造をとる必要がなく、ヒンジ409、410のみで対応が可能となる。このような構成をとることによって、従来問題であった機械的な信頼性の低下を防止することが可能となる。

【0043】

図5に本発明の表示装置を用いた携帯電話の実施形態を示す。図5に示す携帯電話は第1の筐体501、第2の筐体502、第1の表示画面503、第2の表示画面504、第3の表示画面505、スピーカー506、アンテナ507、ヒ

ンジ508、キーボード509、マイク510、バッテリー511より構成されている。図5（A）は内側を開いた図を示しており、図5（B）は外側を示しており、図5（C）は側面を示している。本発明の表示装置は筐体501の中に装着され、従来例で示した2つの表示装置を内蔵した携帯電話に比べて、筐体501の厚さを薄くすることができる。

【0044】

また、図5において、サブディスプレイ用表示画面は2個配置されているが、2個には限定されない。1個でも良いし、3個以上であっても良い。

【0045】

本実施形態においては、タブレットPCと携帯電話について示したが、本発明はそれらに限定されず、PDA、ビデオカメラ、デジタルカメラ、携帯DVD、携帯TV、ゲーム機器など様々な表示装置を用いる電子機器に使用が可能である。

【0046】

【実施例】

（実施例1）

図6に本発明の表示装置に用いられるソース信号線駆動回路について説明をおこなう。本発明の表示装置では、表示を両側から見るため、双方から見た場合、表示の方向が逆となる。よって、どちらの方向から画面を見るかによって画面を駆動する方向を変える必要がある。そのため、本発明の表示装置のソース信号線駆動回路では図6のような回路構成をおこなっている。

【0047】

図6において、ソース信号線駆動回路はシフトレジスタ601、NAND回路607、バッファ回路608、アナログスイッチ609～612によって構成されている。以下にその動作を説明する。シフトレジスタ601はクロックドインバータ603、604、インバータ605によって構成されるDFF602をつなぎ合わせて構成されている。DFFには端子SSPより信号が入力されクロック信号(CL、CLK)によって次のDFFに転送される。ここでスイッチ606はSL/Rによって制御され、前段か後段かの選択がおこなわれる。すなわち

前段をスイッチが選択した場合にはパルスは左から右に転送され、後段を選択した場合にはパルスは右から左に転送される。

【0048】

これらのパルスはNAND回路608、バッファ回路609を経て、アナログスイッチ609～612を駆動する。アナログスイッチによって映像信号はサンプリングされソース信号線S1～S4に送られる。

【0049】

このようにスイッチ606を設けることによって、映像の方向を左右に反転することが可能となり、本発明の両面発光表示装置に対応が可能となる。尚、このような駆動回路はTFTを用いて透明基板上に構成しても良いし、LSIをTABで装着しても良いし、LSIを直接透明基板上に貼り付けても良い。

【0050】

(実施例2)

図15に時間階調方式の発光装置の画素の例を示す。図15は発光素子1503を時間階調で駆動する画素を示している。この画素は発光素子1503、駆動TFT1502、保持容量1505、スイッチングTFT1501によって構成されている。スイッチングTFT1501のゲートはゲート信号線G1に接続され、ゲート信号線G1がハイになるとオンして、ソース信号線S1のデータを保持容量1505と駆動TFT1502のゲートに書き込む。駆動TFT1502がオンすると電源供給線V1より電流が駆動TFT1502を介して発光素子1503に流れる。この状態は次の書き込みがおこなわれるまで保持される。

【0051】

図15（B）は時間階調のタイミングチャートを示したものである。この例では4ビットを例にとり説明をおこなうが、4ビットに限定されるものではない。1フレームは4つのサブフレームSF1～SF4によって構成されている。それぞれのサブフレームはアドレス期間（書き込み期間）Ta1～Ta4とサスティン期間（点灯期間）Ts1～Ts4によって構成される。サスティン期間Ts1：Ts2：Ts3：Ts4=8：4：2：1にすることによって、サスティン期間に各ビットが対応し、時間階調が可能になる。このとき、アドレス期間は点灯を

おこなわず、アドレッシングのみをおこなっている。

【0052】

このような時間階調方式の駆動をおこなうためにはサブフレームを生成するためのコントロール回路とメモリ回路が必要となる。このようなコントロール回路、メモリ回路を用いても映像を左右反転することは可能である。図9にコントロール回路とメモリ回路を示す。この例では4ビットのデジタルビデオ信号をサブフレーム変換しているが、特に4ビットには限定されない。以下に動作を説明する。まずコントロール回路902はデジタルビデオ信号をスイッチ903を介して、メモリ904に入力する。第1フレームのデータが全てメモリ904に入力されると、スイッチ903をメモリ905に切り換え、第2フレームのデジタルビデオ信号を書き込んでいく。

【0053】

一方、スイッチ906はその間にメモリ904-1~4に順次接続され、メモリ904に蓄えられた信号をディスプレイ901に入力する。そして、第2フレームのデータが全てメモリ905に入力されると、スイッチ903をメモリ904に切り換え、第3フレームのデジタルビデオ信号を書き込んでいく。また、スイッチ906はその間にメモリ905-1~4に順次接続され、メモリ905に蓄えられた信号をディスプレイ901に入力する。以上を繰り返すことによりサブフレームを形成できる。

【0054】

映像信号を左右反転する場合にはメモリ904または905を呼び出すときに、ディスプレイの1列ごとの信号を逆に呼び出すことによって、可能となる。このようにサブフレーム変換をおこなう表示装置では、メモリの呼び出し順序を変えることにより、両面発光の対応が可能となる。

【0055】

(実施例3)

図16に時間階調方式の発光装置の画素の例を示す。図16は発光素子1603を時間階調で駆動する画素を示している。この画素は発光素子1603、駆動TFT1602、保持容量1605、スイッチングTFT1601によって構成

されている。スイッチングTFT1601のゲートはゲート信号線G1に接続され、ゲート信号線G1がハイになるとオンして、ソース信号線S1のデータを保持容量1605と駆動TFT1602のゲートに書き込む。駆動TFT1602がオンすると電源供給線V1より電流が駆動TFT1602を介して発光素子1603に流れる。この状態は次の書き込みがおこなわれるまで保持される。

【0056】

図16（B）は時間階調のタイミングチャートを示したものである。この例では4ビットを例にとり説明をおこなうが、4ビットに限定されるものではない。1フレームは4つのサブフレームSF1～SF4によって構成されている。それぞれのサブフレームはアドレス期間（書き込み期間）Ta1～Ta4とサスティン期間（点灯期間）Ts1～Ts4、消去期間Teによって構成される。サスティン期間Ts1：Ts2：Ts3：Ts4 = 8：4：2：1にすることによって、さすティン期間に各ビットが対応し、時間階調が可能になる。このような画素では消去期間Teを設けることにより、時間を有効に使うことができる。図15に示した例ではアドレス期間には点灯ができなかったが、図16に示す例では可能である。消去期間Teは点灯期間がアドレス期間より短い場合に必要であり、消去をおこなうためのTFT1606と消去線E1を追加している。

【0057】

以下、実施例2と同様にメモリ回路の呼び出しの順序を変えることによって、画面の左右を反転することが可能になる。

【0058】

図19に図16と異なる画素の例を示す。図19は発光素子1903を時間階調で駆動する画素を示している。この画素は発光素子1903、駆動TFT1907、保持容量1905、スイッチングTFT1901、1902によって構成されている。スイッチングTFT1901のゲートはゲート信号線G1に接続され、ゲート信号線G1がハイになるとオンして、ソース信号線S1のデータを保持容量1905とスイッチングTFT1902のゲートに書き込む。駆動TFT1902がオンすると電源供給線V1より電流がスイッチングTFT1902、駆動TFT1907を介して発光素子1903に流れる。この状態は次の書き込み

がおこなわれるまで保持される。駆動TFT1907のゲートは固定電位の電源線V2に接続されスイッチングTFT1902がオンするとV1、V2の電位差に応じた電流が発光素子1903に流れる。このような画素はTFT1907を飽和領域で使用する定電流駆動に適している。

【0059】

(実施例4)

図7はデコーダーを用いたゲート信号線駆動回路の例である。デコーダーはアドレス線1、1b、2、2b、3、3b、4、4bよりアドレス信号をNAND701、702に入力し、その出力をNOR703、インバータ704、705を通してゲート信号線G001に出力する。前述したシフトレジスタではパルスを順にシフトするため、任意の信号線を選択することはできないが、デコーダーではアドレスを指定すれば任意の信号線が選択可能である。よってデコーダーを使うことによって、実施形態で示したディスプレイを部分的に発光させその部分をサブディスプレイとして使用することが可能となる。

【0060】

(実施例5)

図13は本発明を腕時計型コミュニケーションツールに使用した例である。図13(A)は腕時計型コミュニケーションツールを閉じた図であり、図13(B)は開いた図である。1301は第1の筐体、1302は第2の筐体である。本発明の表示装置は第2の筐体にはめ込まれている。1303、1304はベルト、1305は第1の表示面、3106は第2の表示面、1307はカメラ、1308はキーボード、1309はマイク、1310はスピーカーである。

【0061】

コミュニケーションツールを閉じた場合は第1の表示面1305に時計の表示が現れ、一般的な腕時計として使用できる。開いた場合には第2の表示面1306に様々な映像を表示することができる。例えばコミュニケーションツールがテレビ電話機能を持っていれば、通信相手の顔などを表示することができる。また、テレビ電話に限らず、インターネット接続をおこないWeb端末として使用することも可能であり、その他のソフトアプリケーションを表示しても良い。テレ

ビ放送などを表示しても良い。また第1の表示面1305は時計に限らず、メール受信状況や、バッテリーの充電状況を表示しても良い。

【0062】

(実施例6)

図11は本発明をビデオカメラに適応した例である。ビデオカメラでは液晶ディスプレイをモニターに使用したものが標準である。撮影者が他の人物あるいは物を撮影する場合はカメラのレンズとは逆方向にモニターを向け、撮影者が自分を撮影する場合にはカメラのレンズと同一方向にモニターを向ける必要がある。そのため、モニターはカメラ本体に対して回転する必要があり、従来例のタブレットPCで示したような複雑な回転軸が必要になり、信頼性を低下させる原因になっている。本発明を用いたビデオカメラでは第1および第2の表示面のいずれにも表示が可能であるため、複雑な回転軸を持つ必要がなく、単純なヒンジで対応が可能であり、信頼性の低下を防ぐことができる。

【0063】

図11に示すビデオカメラは本体1101、レンズ1102、マイク1103、ファインダー1104、両面発光ディスプレイ1105、ヒンジ1106より構成されている。両面発光ディスプレイ1105には第1の表示面1107、第2の表示面1108を有している。図11(A)は両面発光ディスプレイ1105を閉じた状態であり、この場合は第1の表示面が表示される。図11(B)は両面発光ディスプレイ1105を開いた状態であり、第1の表示面および第2の表示面両方の発光が可能となる。これによって、複雑な回転軸を用いずに、いずれの方向からもモニターが可能となり、機械的な信頼性を向上させることができる。

【0064】

(実施例7)

図12はデジタルカメラに本発明を適応した例である。本実施例のデジタルカメラは本体1201、シャッター1202、ファインダー1203、レンズ1204、モニター表示部1205、ヒンジ1206より構成されている。また、モニター表示部1205は第1の表示面1206、第2の表示面1207を有して

いる。従来のデジタルカメラはモニター表示部は本体に埋め込まれてあり、固定されていた。本発明の両面発光表示装置を用い、且つ、ヒンジ1206を用いて、モニター表示部を開閉することが可能になる。図12（A）はカメラを前から見た図であり、図12（B）は後ろから見た図である。図12（C）はモニターを開き前から見た図であり、図12（D）はモニターを開き後ろから見た図である。このようにモニターを開いた場合には前後いずれからも画像のモニターが可能となる。

【0065】

（実施例8）

本発明の実施例について、図10を用いて説明する。本実施例では、第1及び第2の表示画面を有する両面表示パネルの構成について詳細に説明する。図10（A）にはトランジスタを用いたアクティブ型、図10（B）にはパッシブ型を示す。

【0066】

図10（A）において、透光性を有する基板1000上に、駆動用トランジスタ1001、第1の電極（画素電極）1002、発光層1003及び第2の電極（対向電極）1004が設けられている。第1の電極1002、発光層1003及び第2の電極1004の積層体が発光素子1025に相当する。そして本発明では、第1の電極1002及び第2の電極1004は透光性を有する材料により形成されることを特徴とする。そのため、発光素子1025は、基板1000に向かう第1の方向と、第1の方向とは反対の第2の方向に発光し、第1の表示領域1005と第2の表示領域1006を有する。なお、第1の電極1002及び第2の電極1004を構成する透光性材料とは、ITO等の透明導電膜、又は光を透過できる厚さで形成されたアルミニウム等を用いたものを指す。

【0067】

図10（B）において、透光性を有する基板1000上に第1の電極（画素電極）1060、発光層1061及び第2の電極（対向電極）1062が設けられている。第1の電極1060、発光層1061及び第2の電極1062の積層体が発光素子1025に相当する。またバンクとして機能する絶縁膜1063及び

樹脂膜 1064 が設けられている。

【0068】

このように、パッシブ型の場合には、発光層 1061 を電極で挟んだ構造をしている。発光層 1061 としては、無機材料を主成分とした材料を用いてもよく、その場合、第 1 の電極 1060 と発光層 1061 の間、又は第 2 の電極 1062 と発光層 1061 の間に絶縁層を設けてもよい。この絶縁層としては、成膜表面の吸着反応を利用した熱 CVD 法を用いて、酸化アルミニウム (Al_2O_3) と酸化チタニウム (TiO_2) を交互に積層した構造を用いるとよい。

【0069】

本実施例は、他の実施例と自由に組み合わせができる。

【0070】

(実施例 9)

本発明の実施例について、図面を用いて説明する。本実施例では、第 1 及び第 2 の表示画面を有し、さらにイメージセンサ機能を有する両面表示パネルの構成について詳細に説明する。

【0071】

図 8 (A) は、透光性を有する基板 800 上に形成された駆動用トランジスタ 801、透光性材料により形成された第 1 の電極（画素電極）802、発光層 803 及び透光性材料により形成された第 2 の電極（対向電極）804 が設けられている。発光素子 825 は、基板 800 に向かう第 1 の方向と、第 1 の方向とは反対の第 2 の方向に発光する。そして、第 2 の電極 804 上に形成された絶縁膜 835 上に、P 型層 831、I 型（真性）層 832 及び N 型層 833 の積層体からなる光電変換素子 838 と、P 型層 831 に接続された電極 830、N 型層 833 に接続された電極 834 が設けられる。

【0072】

上記構成を有する両面表示パネルは、光源として発光素子 825、イメージセンサ素子として光電変換素子 838 を用いる。発光素子 825 及び光電変換素子 838 は同一の基板 800 上に配置されており、発光素子 825 から発せられる光は、被写体 837 において反射して、その反射した光は光電変換素子 838 に

入射する。そうすると、光電変換素子838の両電極間の電位差は変化し、その変化した電位差に応じて両電極間に電流が流れ、その流れた電流量を検知することで、被写体837の情報を得ることができる。そして、その得られた情報は、発光素子825を用いて表示することができる。なお、イメージセンサ機能を用いる際には、光源から発せられる光が被写体において反射するように、表示面に被写体を密着させる状態で用いることが好ましい。

【0073】

つまり、発光素子825は、被写体の情報を読み取る際の光源としての役割と、画像を表示する役割の2つの役割を果たす。そして、両面表示パネルは、被写体の情報を読み取るイメージセンサ機能と、画像を表示する表示機能の2つの機能を有する。このような2つの機能を有しているにも関わらず、イメージセンサ機能を用いる際には通常必要である光源や光散乱板を別個に設ける必要がないため、本実施の形態における両面表示パネルを用いると、大幅な小型化、薄型化及び軽量化が実現する。

【0074】

上記構成を有する両面表示パネルの等価回路の一例について、図8（B）を用いて説明する。図8（B）には一つの画素850を示し、画素850は発光素子825を有する副画素817と、光電変換素子847を有する副画素849を有する。副画素817は、信号線820、電源線821、走査線822、ビデオ信号の入力を制御するスイッチ用トランジスタ823、入力されたビデオ信号に応じた電流を発光素子825に供給する駆動用トランジスタ824を有する。なおこの副画素817の構成は、図8（A）に示したトランジスタと発光素子を有する断面構造における、代表的な回路構成としても適用することができる。

【0075】

一方、副画素849は、信号線840、走査線842、843、光電変換素子847の両電極間の電位差をリセットするリセット用トランジスタ846、光電変換素子847の両電極間の電位差によりそのソース・ドレイン間に流れる電流量が決定する增幅用トランジスタ845と、光電変換素子847から読み取られた信号の駆動回路への入力を制御するスイッチ用トランジスタ844を有する。

【0076】

なお、ここでは、アクティブ型の発光素子と、光電変換素子とを同一基板上に形成する形態を示したが、図8（B）に図示したようなパッシブ型の発光素子と光電変換素子とを同一基板上に形成してもよい。また、一画素に発光素子825及び光電変換素子838を有する場合を図示したが、画素毎に光電変換素子838を設ける必要はなく、読み取る被写体や携帯端末の用途に従って、複数の画素毎に光電変換素子838を設けてもよい。そうすると、発光素子825の開口率が拡大するため、明るい画像を提供することができる。

【0077】

本実施例は、他の実施例と自由に組み合わせることができる。

【0078】

（実施例10）

図14に本発明を用いたタブレットPCのブロック図を示す。本実施例は前述した本発明の実施形態で述べた例に対応するものである。本実施例においてタブレットPCはCPU1401、HDD1414、キーボード1415、外部インターフェイス1408、不揮発性メモリ1407、揮発性メモリ1406、通信回路1405、マイク1412、スピーカー1413、音声コントロール1409、タッチパネル1410、タッチパネルコントローラ1411、ディスプレイコントローラ1404、両面発光ディスプレイ1403、ディスプレイ選択回路1402によって構成される。本実施例において、両面発光ディスプレイは使用する表示面によって、画面操作の向きや、映像を切り換える必要がある。

【0079】

そこで本発明では、筐体1と筐体2を接続するヒンジ1416の角度を検出し、ディスプレイを選択する構成を考えた。ヒンジ1416が開いている状態（キーボードを使用している状態）においてはメインディスプレイにあわせた表示が出力されるように動作する。すなわちヒンジ1416の角度データをディスプレイ選択回路1402が検出し、その結果をCPU1401に送る、CPU1401はメインディスプレイ用のデータを両面発光ディスプレイ1403に送るよう、ディスプレイコントローラ1404に指示する。

【0080】

また、ヒンジが閉じている状態（タッチペンを使用している状態）においてはサブディスプレイにあわせた表示が出力されるように動作する。すなわちヒンジ1416の角度データをディスプレイ選択回路1402が検出し、その結果をCPU1401に送る、CPU1401はサブディスプレイ用のデータを両面発光ディスプレイ1403に送るように、ディスプレイコントローラ1404に指示する。このようにして、画面を切り換えることが可能になる。

【0081】

(実施例11)

本実施例では、本発明の携帯端末に搭載する両面表示パネルについて、上記とは異なる実施例について図17を用いて説明する。図17（A）（B）において、1701、1702は偏光板であり、1703は両面表示パネルである。図17（A）は正面から見た図、図17（B）は側面図であり、本実施例では、両面表示パネル1703の表裏に偏光板1701、1702を配置する。上記構成を有する本パネルは、偏光板1701、1702を設けている。この2枚の偏光板は光の偏光方向が直交するように配置することで外光を遮断することができる。また、両面表示パネル1703からの光は1まいの偏光板のみを通過するため表示ができる。このようにすることによって、発光して表示をおこなう部分以外は、黒になりどちらの側から見ても背景が透けて見えることが無いものとすることができる。

【0082】

本実施の形態は、上記の実施の形態と自由に組み合わせることができる。

【0083】

(実施例12)

図22は本発明の表示装置を用いた携帯電話を充電しているときの図を示したものである。図22では携帯を開いた状態で両側発光させているが、閉じた状態であっても良い。一般に発光素子を用いた表示装置では、時間とともに発光素子が劣化し、輝度が低下していく。特に、画素一つ一つに発光素子が配置された表示装置の場合、画素は場所によって点灯頻度が異なるため、場所によって劣化の

度合いがことなる。したがって、点灯頻度の高い画素ほど劣化が激しく、焼きつき現象として、画質を低下させる。よって、通常使用状態に無い充電時などにある表示を行い、使用頻度の低い画素を点灯させることによって、焼きつきを目立たなくすることが可能になる。充電時の表示内容としては、全点灯、標準画像（受けまち画面など）の明暗を反転させた画像、使用頻度の低い画素を検出して表示する画像などがある。

【0084】

図20は図に対応するブロック図であるが、充電器2017より充電状態を検出する信号をC P U 2001が得ることによって、上記に対応する信号を表示するようにディスプレイコントローラ2004に指示をだし、両面発光ディスプレイが発光をおこなう。

【0085】

図21は前述した標準信号の明暗を反転した画像を作り出す手段の例である。映像信号選択スイッチ2106の出力はスイッチ2107に入力され、スイッチ2106の信号がそのままディスプレイ2101に入力されるか、反転して入力されるかを選択できる。明暗反転が必要な場合には反転して入力をおこなえばよい。この選択はディスプレイコントローラによっておこなわれる。

全点灯をおこなう場合にはディスプレイ2101に固定の電圧を入力すればよい。（図示せず）

【0086】

このようにして、充電中に焼きつきを低減するような発光をおこなうことにより、表示画質の劣化を抑えることができる。本実施例は他の実施例とあわせて用いることができる。

【0087】

【発明の効果】

従来のサブディスプレイを有する携帯電話では、2つのディスプレイを有するために、体積が大きくなる、コストがあがるという問題があった。また、従来のタブレットP Cでは、1つのディスプレイを複雑に回転させて使用していたため、機械的な信頼性が低下していた。

【0088】

本発明は、両面発光表示装置を用いて、複数のディスプレイを構成することにより、体積が小さく、コストが低い、機械的信頼性を低下させない電子機器が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 (A) 本発明の実施形態の正面図、(B) 同様の背面図、(C) 同様の側面図。

【図2】 (A) 従来のタブレットPCを開いた状態の図、(B) 従来のタブレットPCを閉じた状態の図。

【図3】 (A) 従来の携帯電話の内側を示す図、(B) 従来の携帯電話の外側を示す図、(C) 従来の携帯電話の側面図。

【図4】 (A) 本発明のタブレットPCを開いた状態の図、(B) 本発明のタブレットPCを閉じた状態の図。

【図5】 (A) 本発明の携帯電話の内側を示す図、(B) 本発明の携帯電話の外側を示す図、(C) 本発明の携帯電話の側面図。

【図6】 シフトレジスタの回路図。

【図7】 デコーダーの回路図。

【図8】 センサーを一体化した実施例を示す図。

【図9】 コントローラのブロック図。

【図10】 両面発光の実施例を示す図。

【図11】 本発明を用いたビデオカメラの図。

【図12】 本発明を用いたデジタルカメラの図。

【図13】 本発明を用いた腕時計型コミュニケーションツールの図。

【図14】 本発明を用いた電子機器のブロック図。

【図15】 (A) アクティブマトリクス型発光装置の画素を示す図、(B) タイミングチャート。

【図16】 (A) アクティブマトリクス型発光装置の画素を示す図、(B) タイミングチャート。

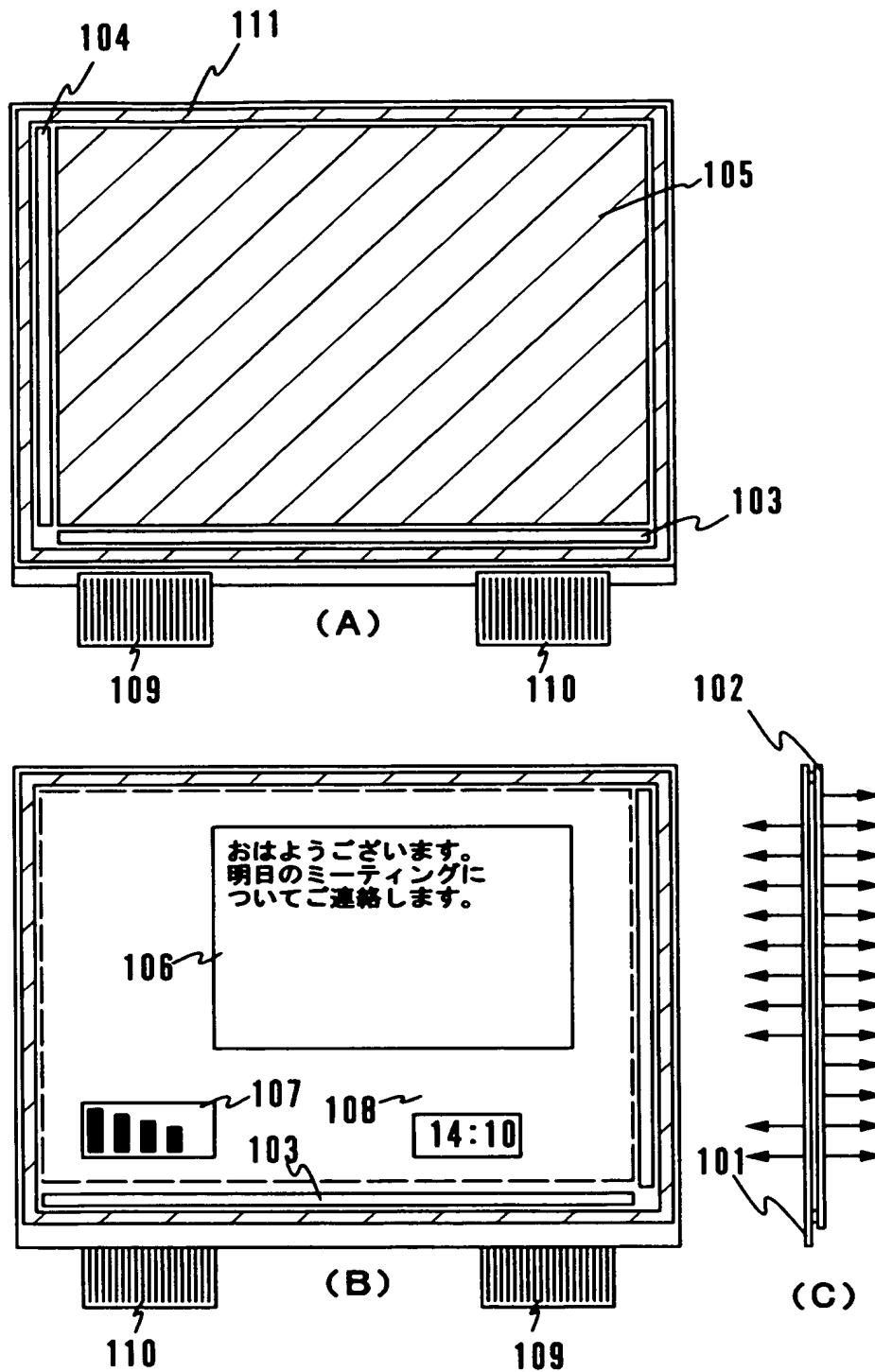
【図17】 偏光板を使用した実施例を示す図。

- 【図18】 両面発光を示す概念図。
- 【図19】 本発明の表示装置の画素を示す図。
- 【図20】 本発明を用いた電子機器のブロック図。
- 【図21】 コントローラのブロック図。
- 【図22】 本発明を用いた電子機器の充電中の様子を示す図。

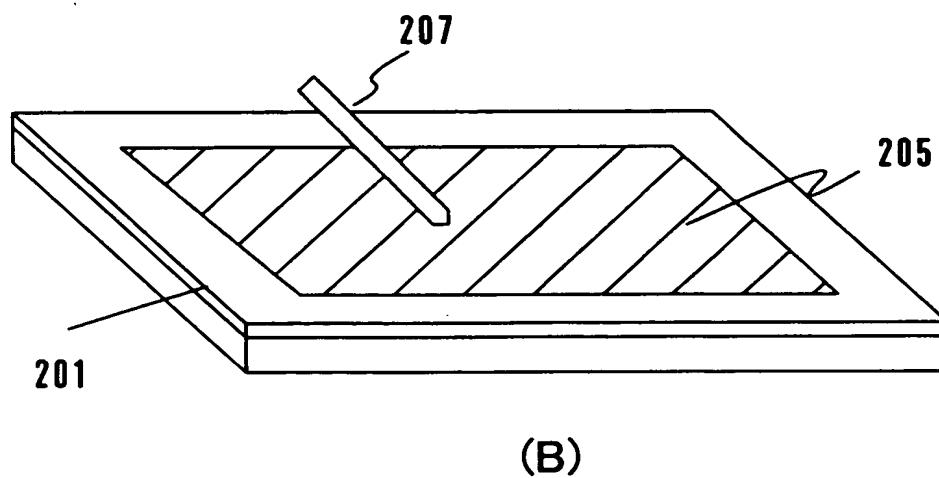
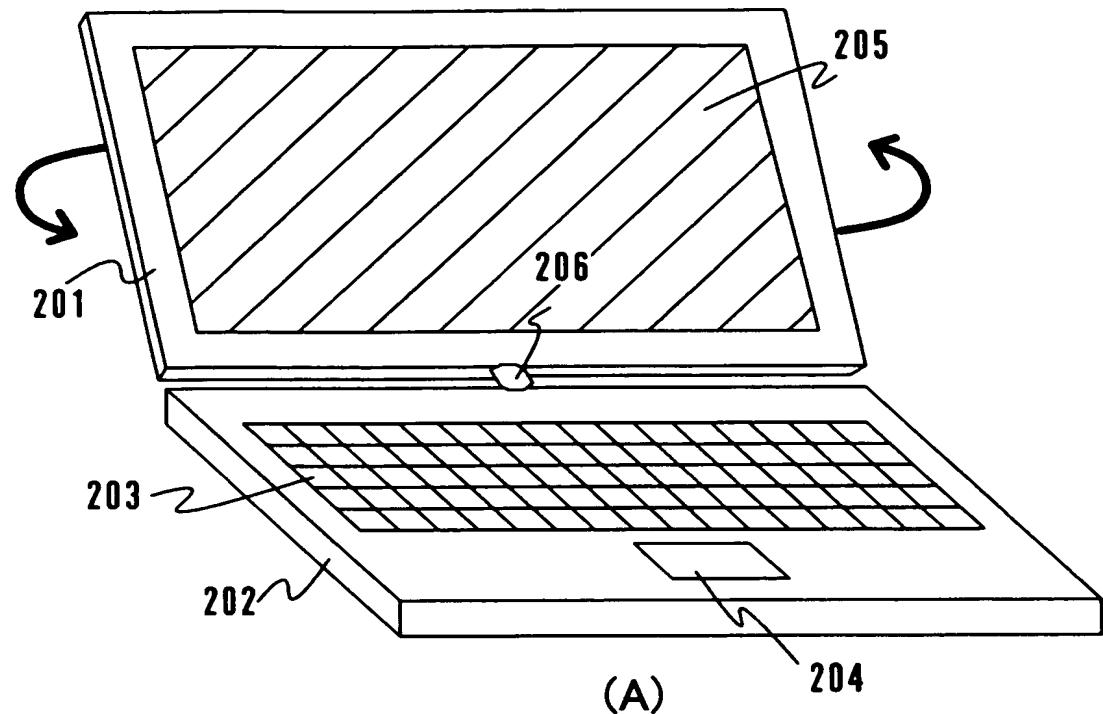
【書類名】

図面

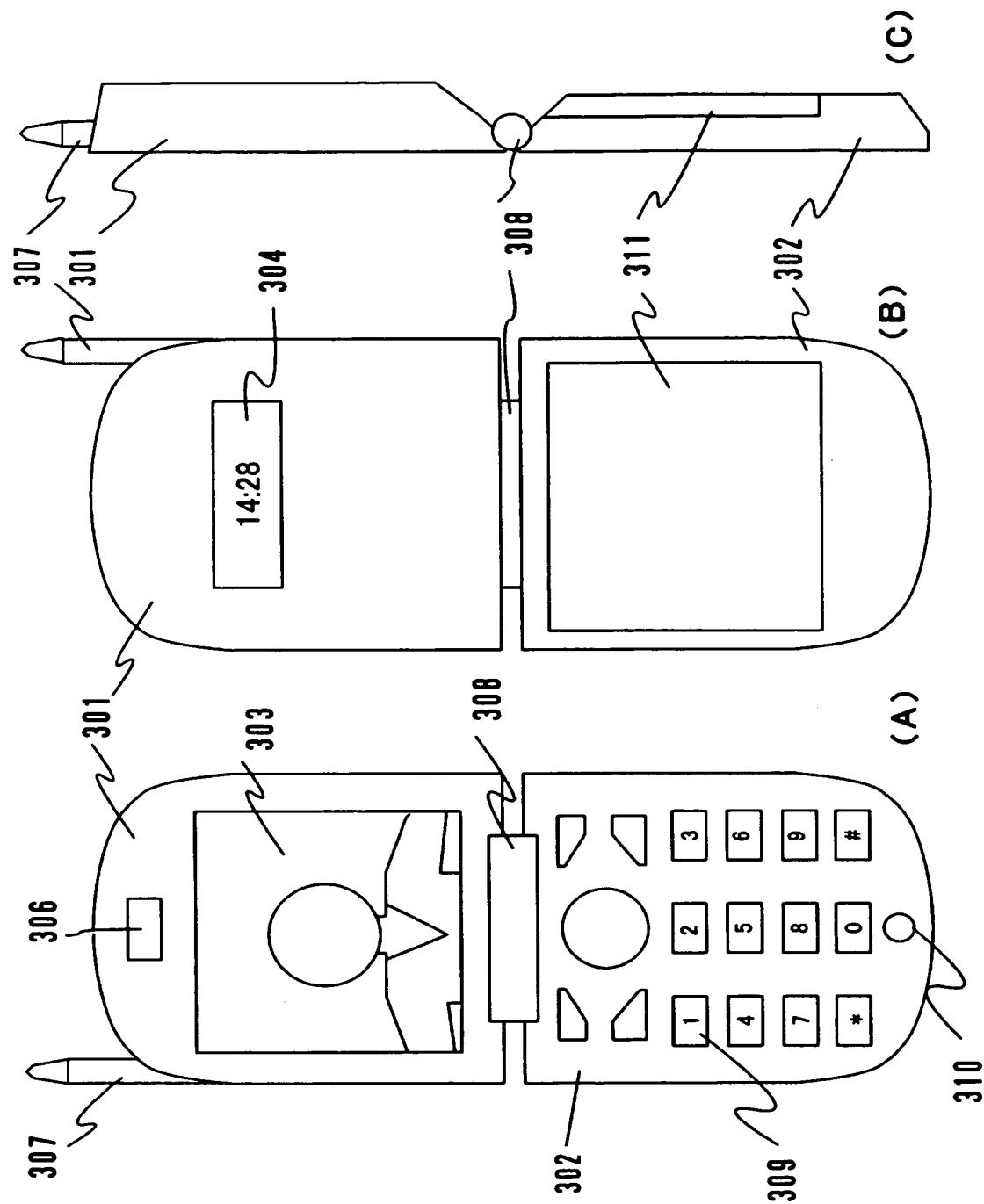
【図1】



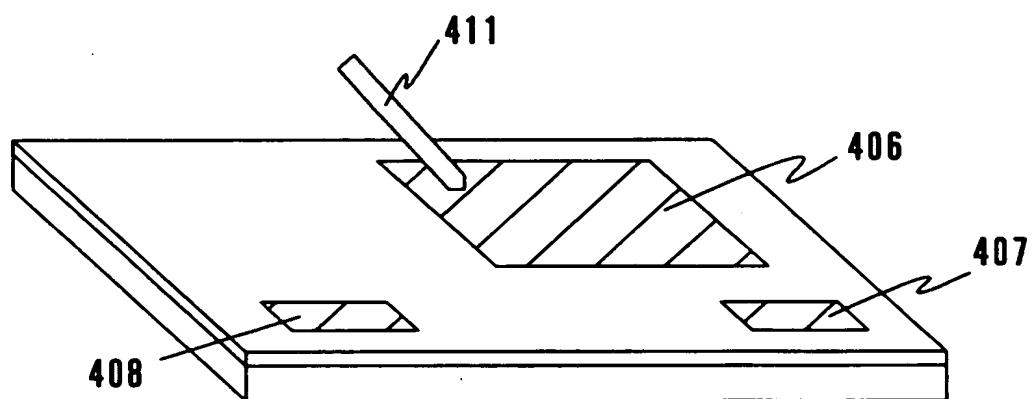
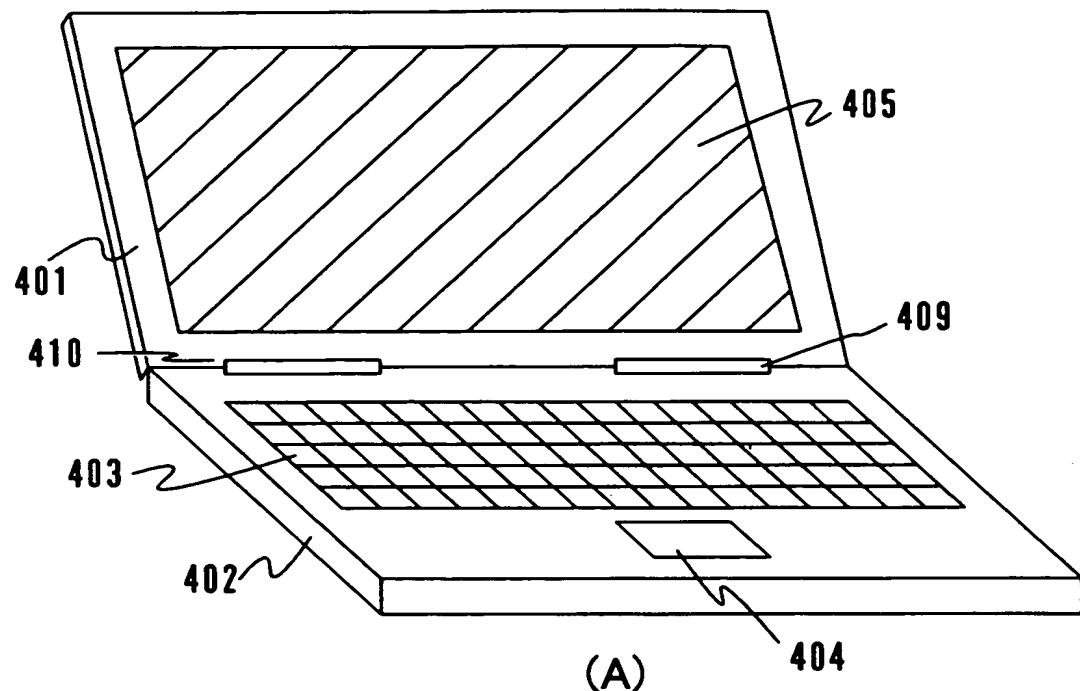
【図2】



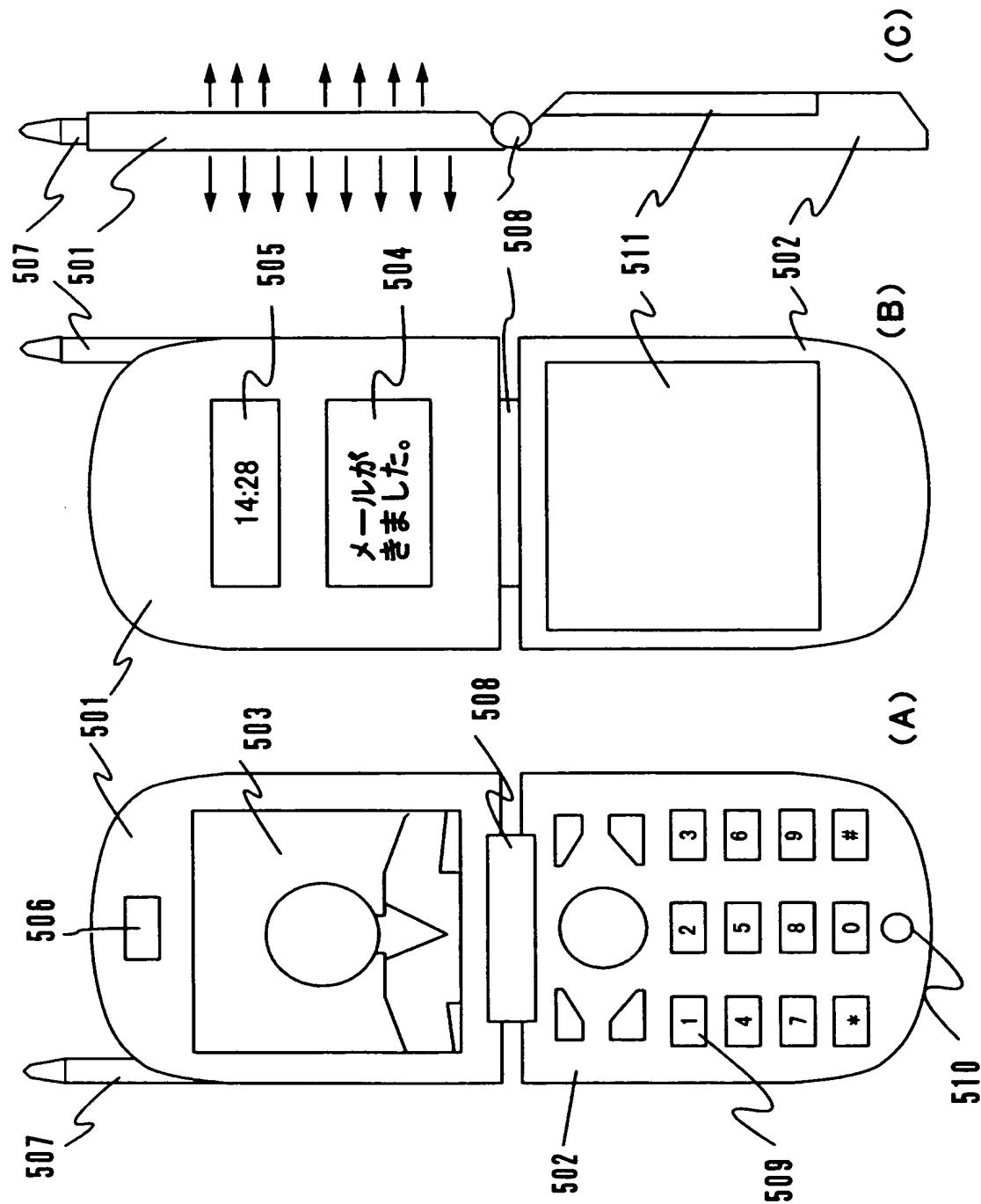
【図3】



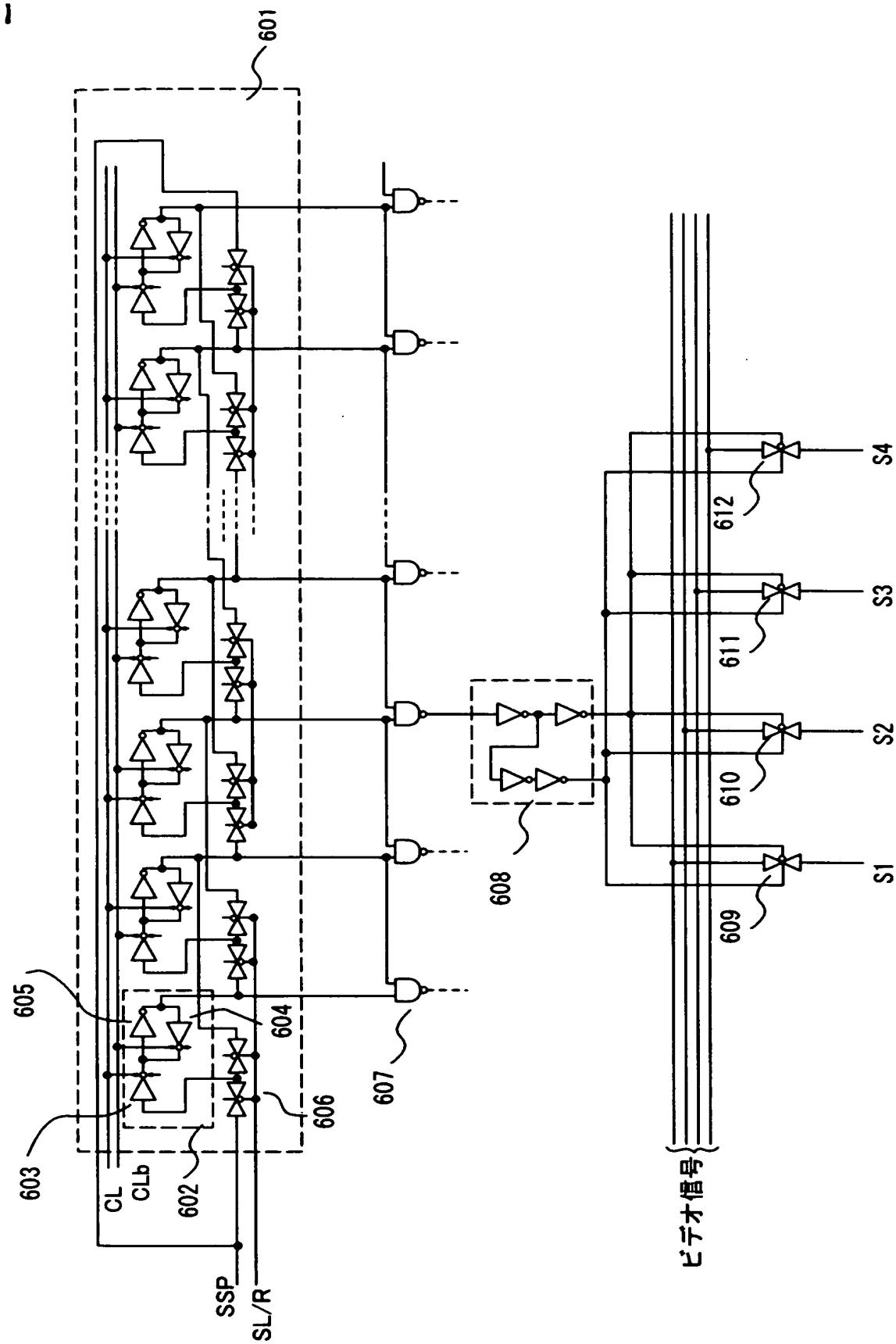
【図4】



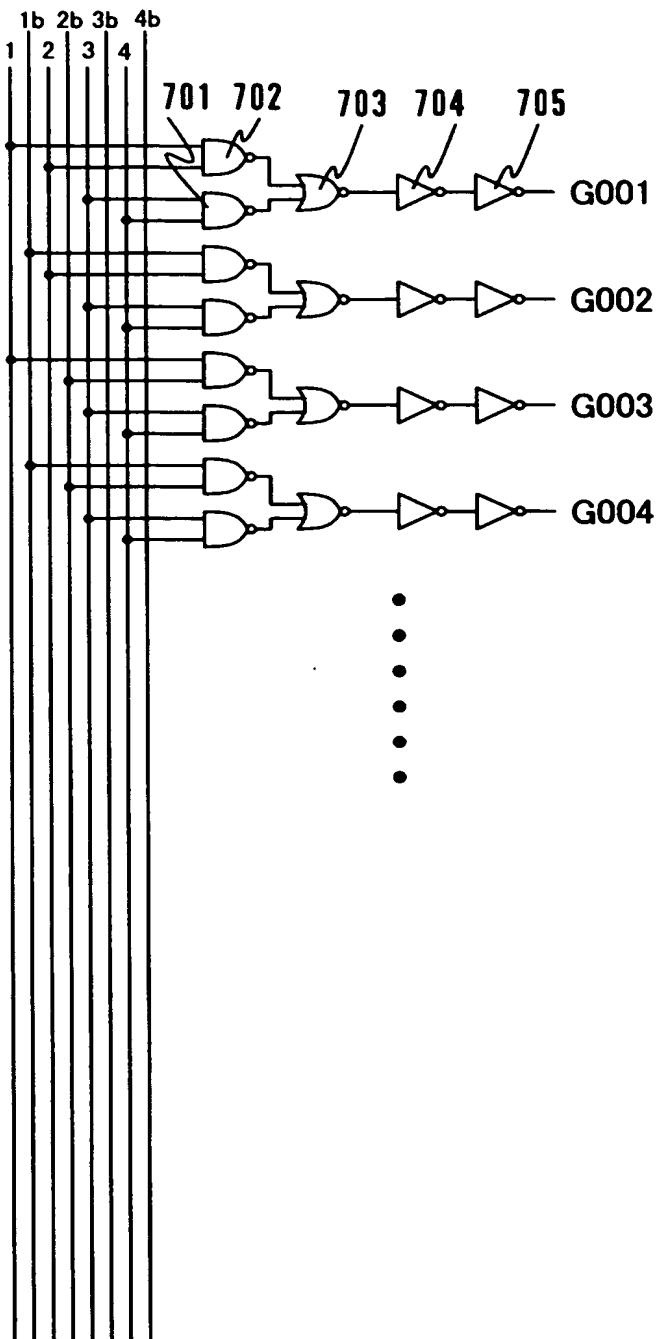
【図 5】



【図 6】

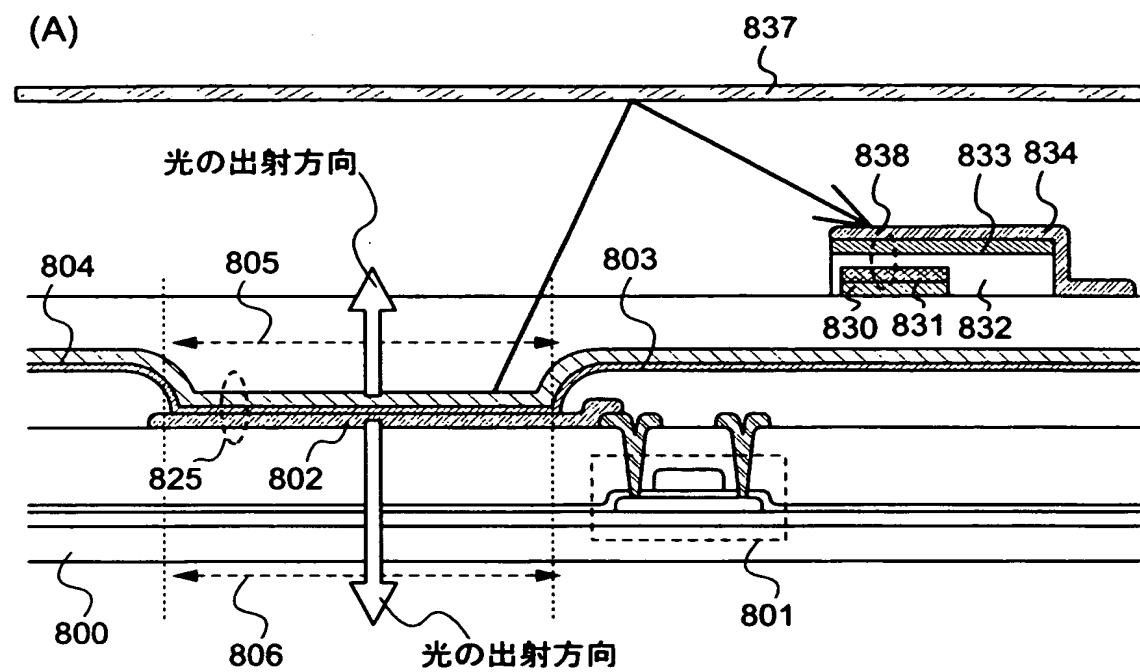


【図 7】

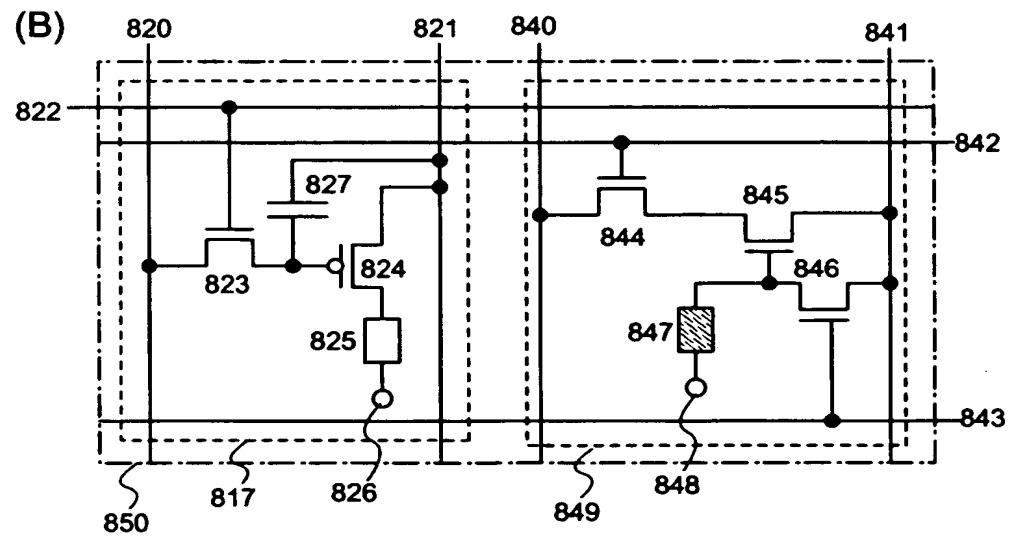


【図 8】

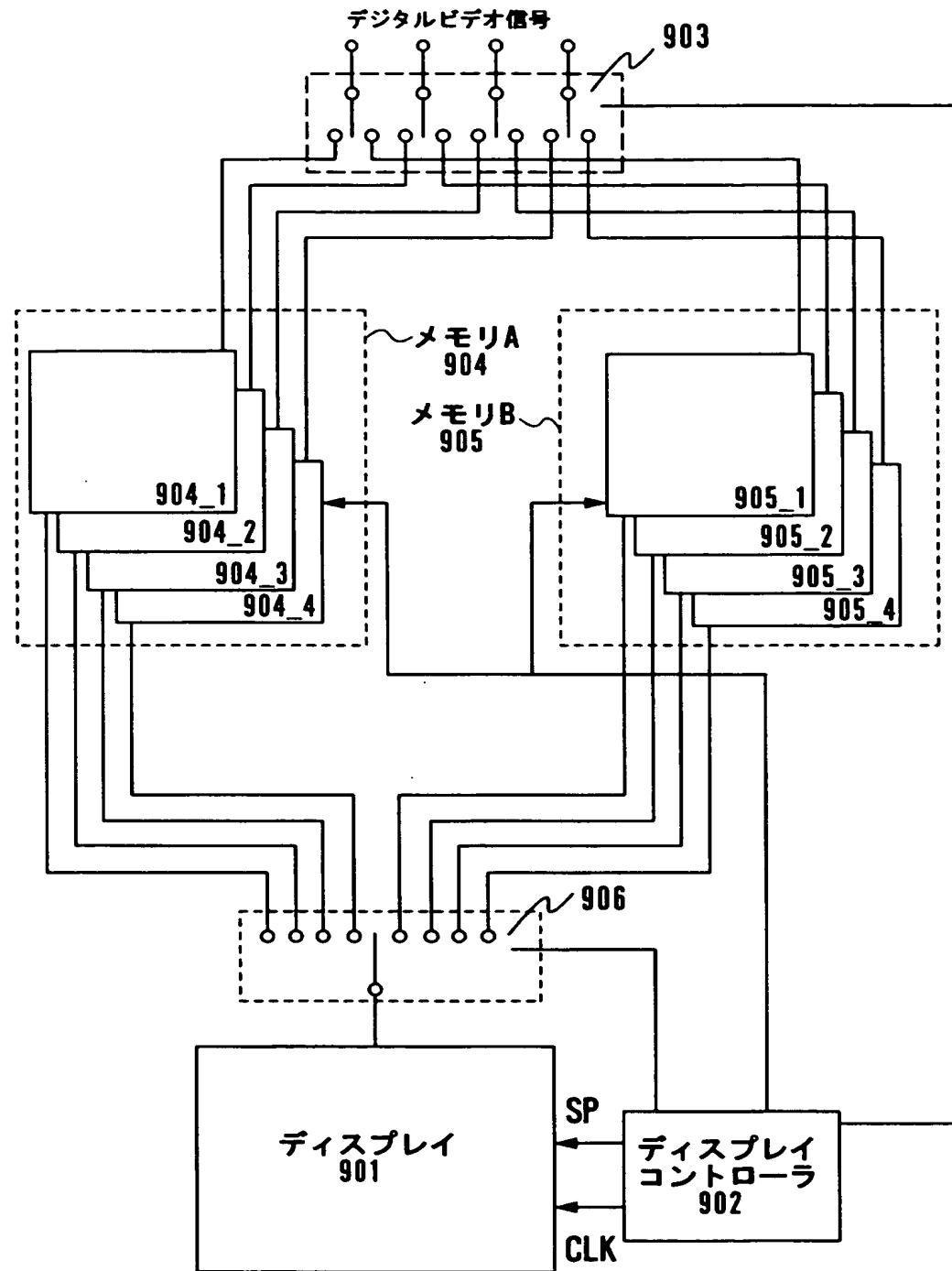
(A)



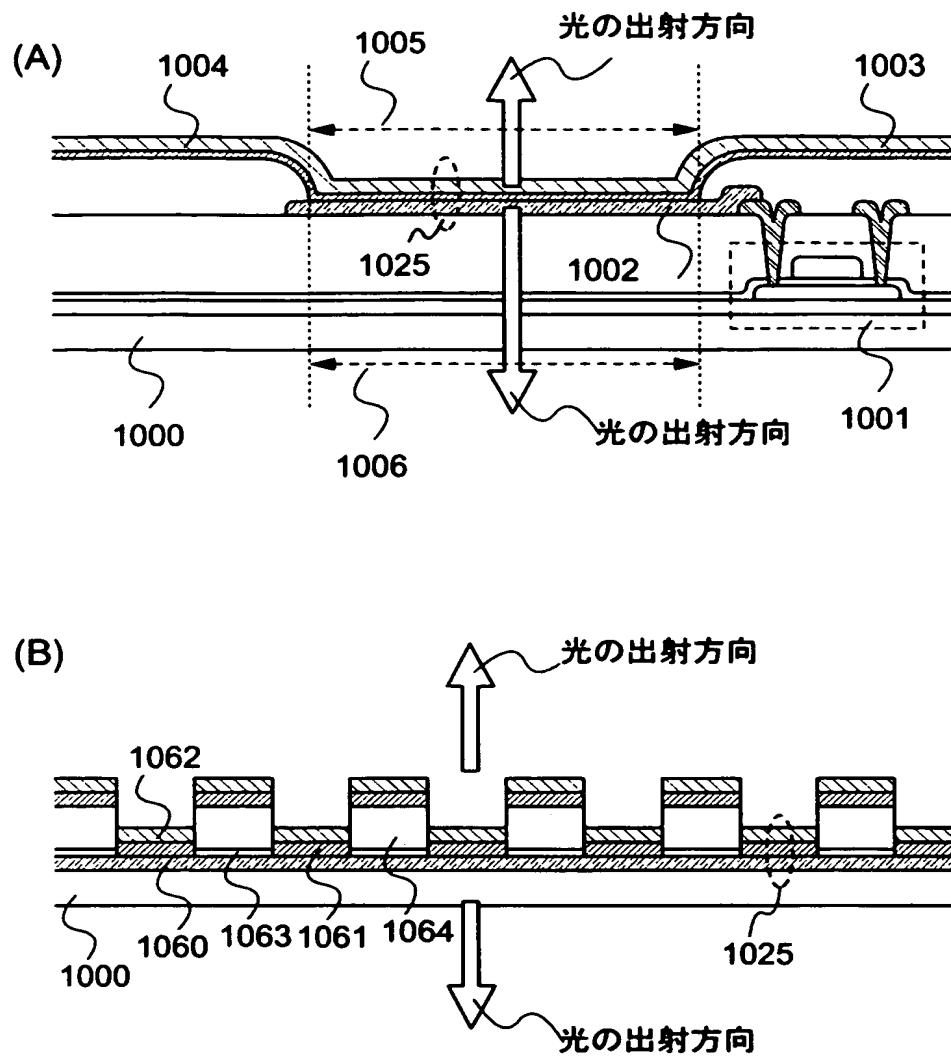
(B)



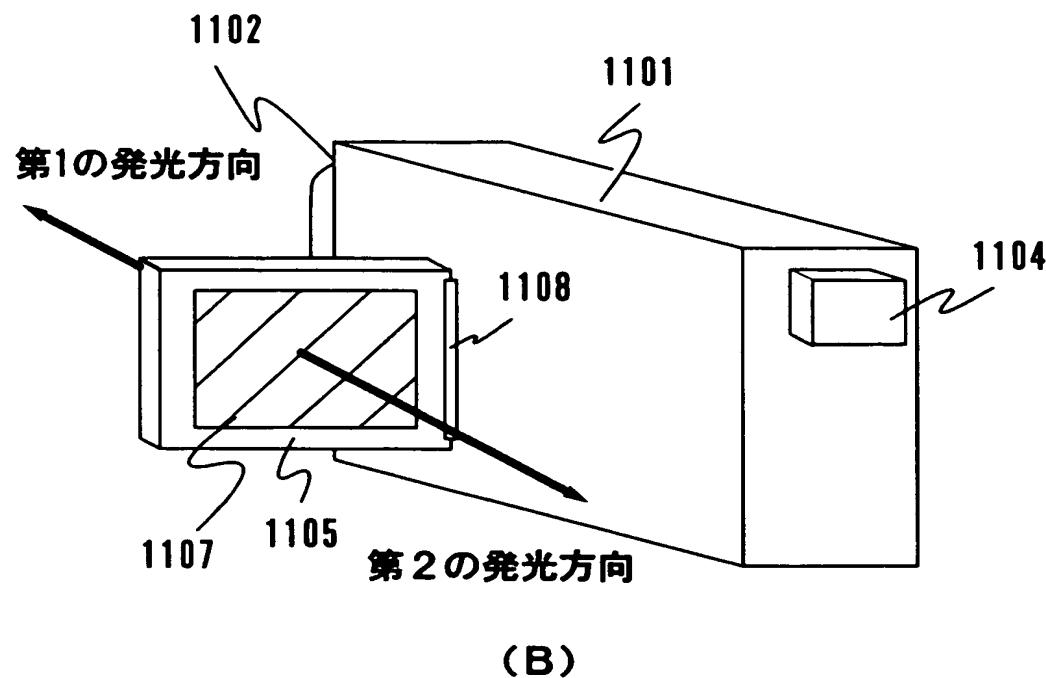
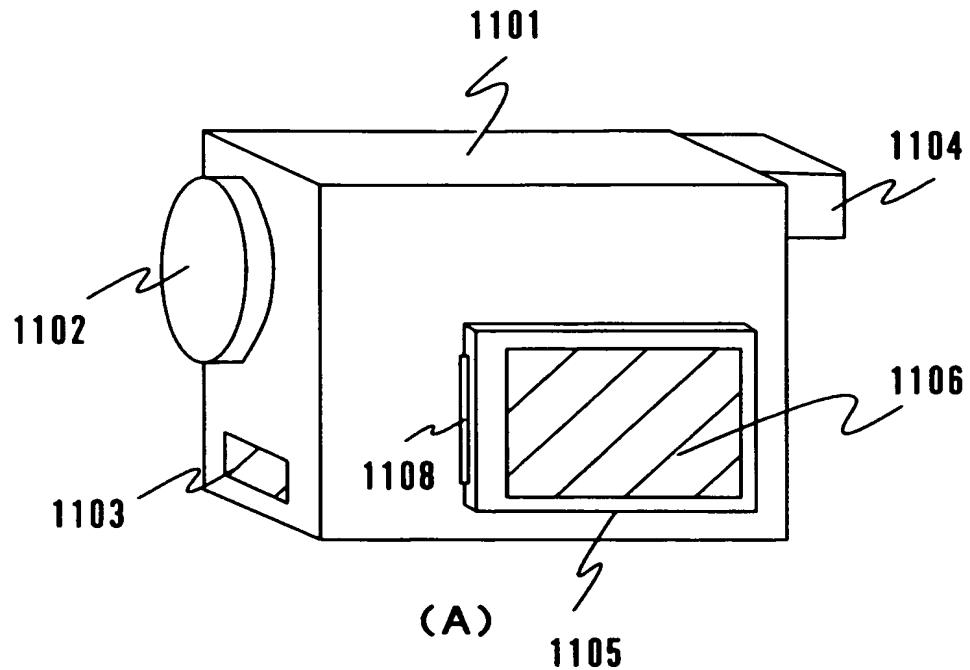
【図9】



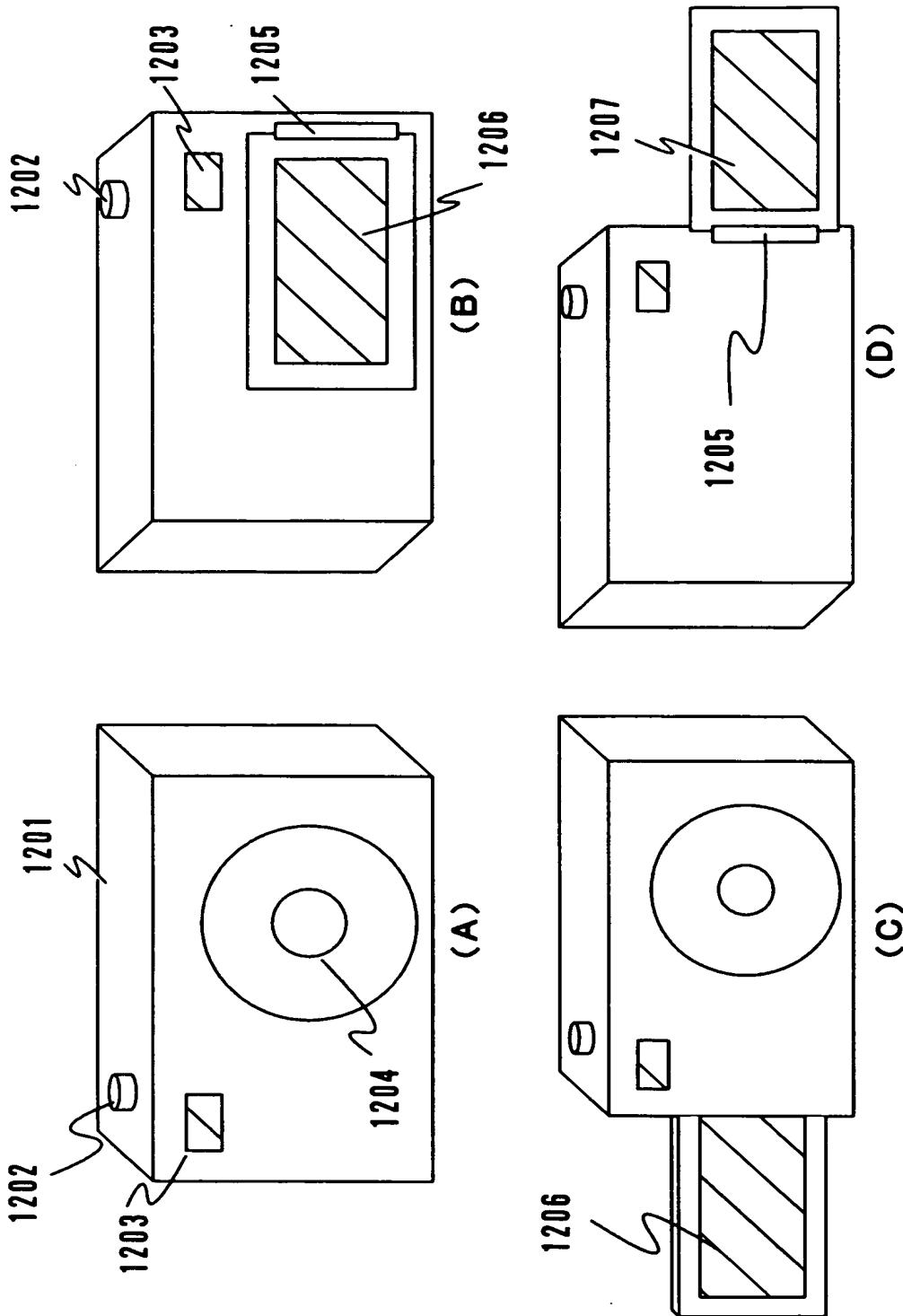
【図10】



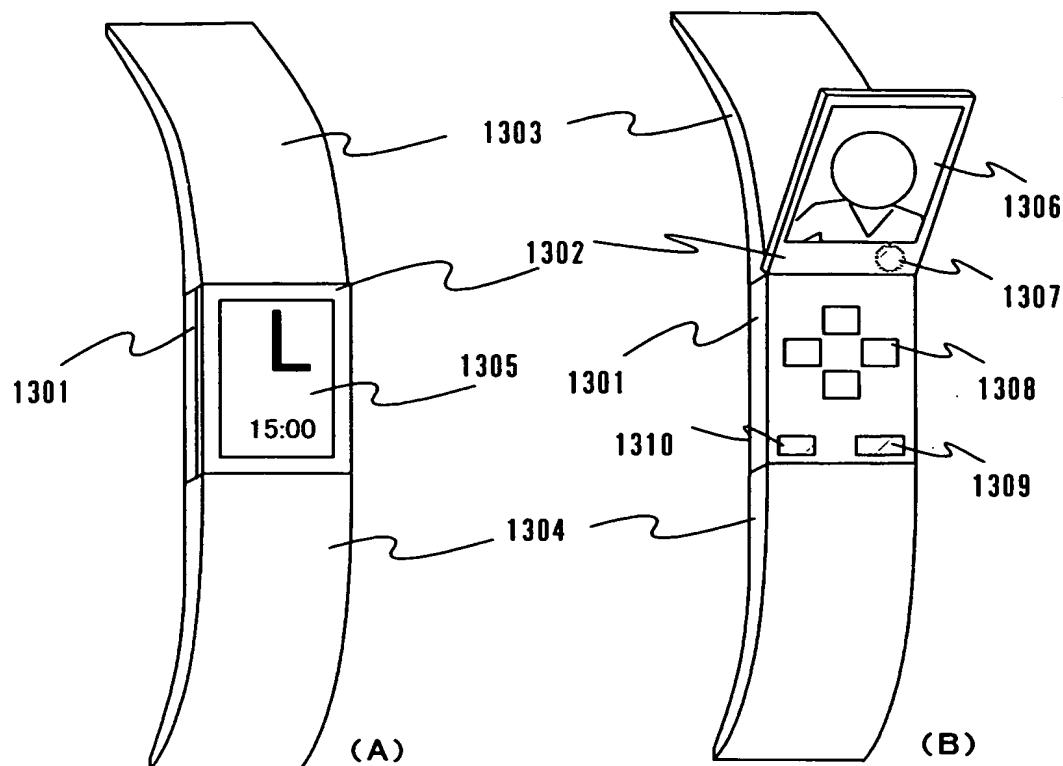
【図11】



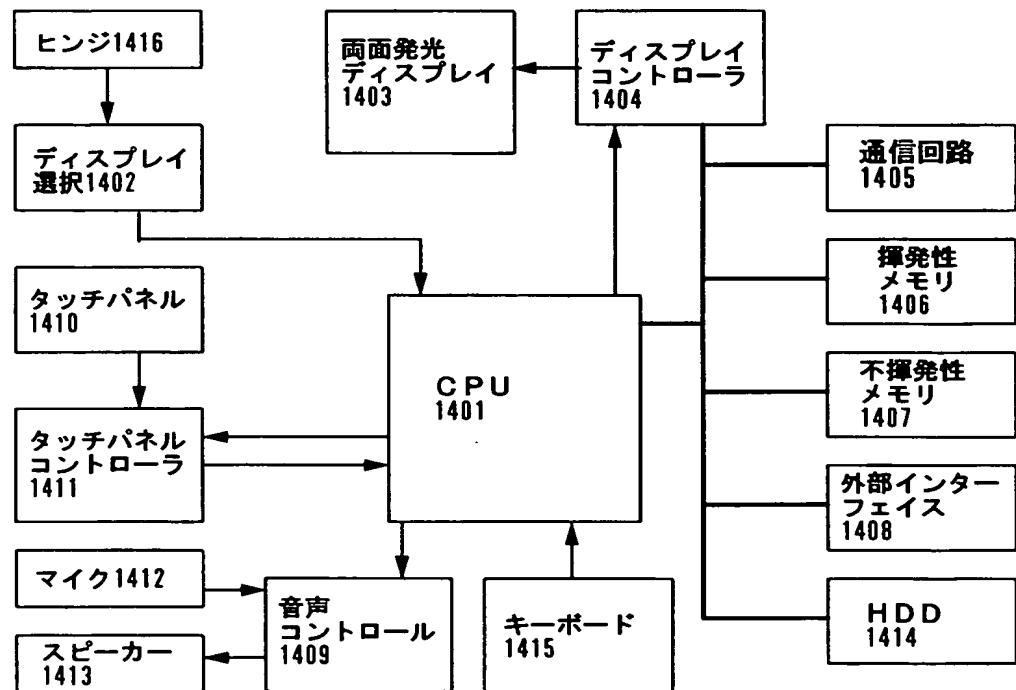
【図12】



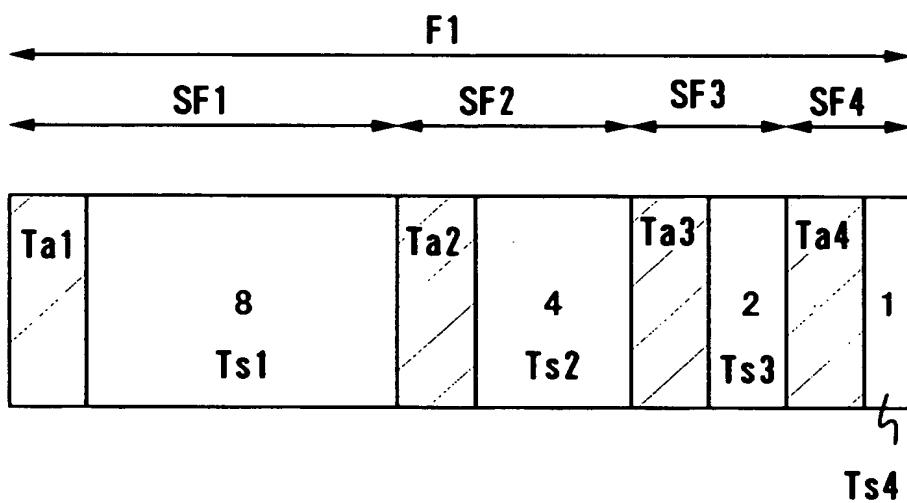
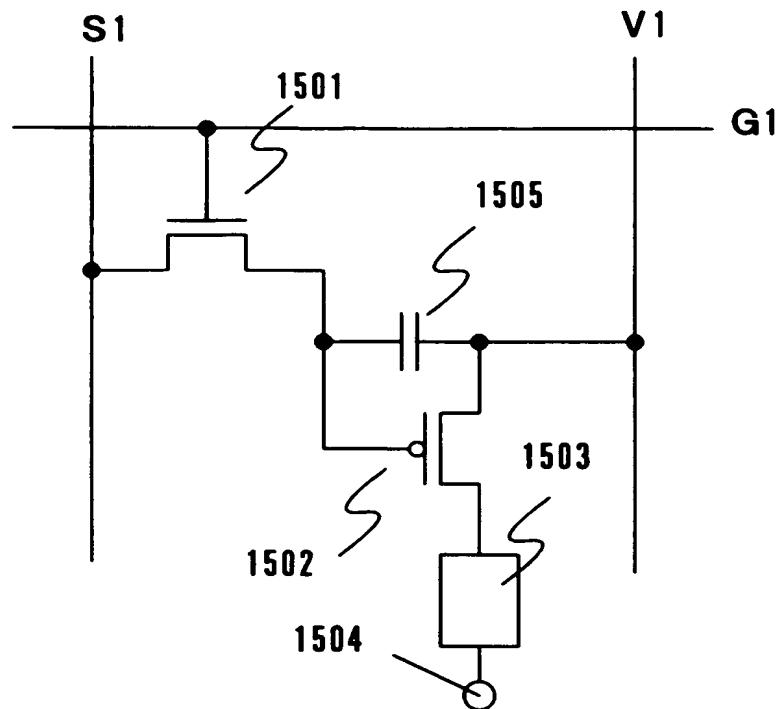
【図13】



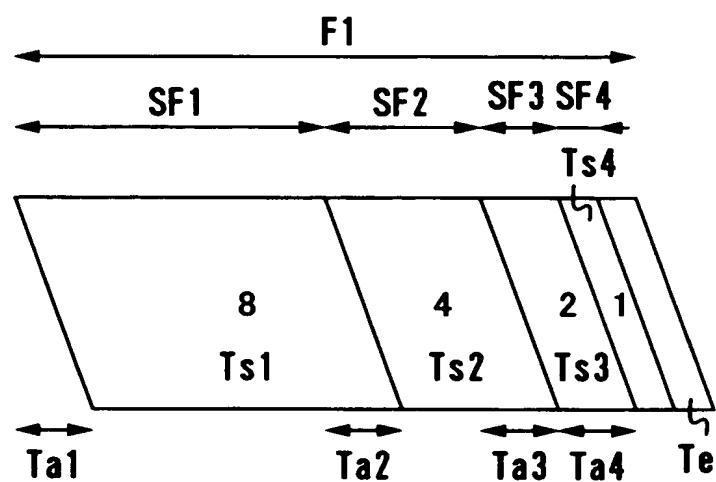
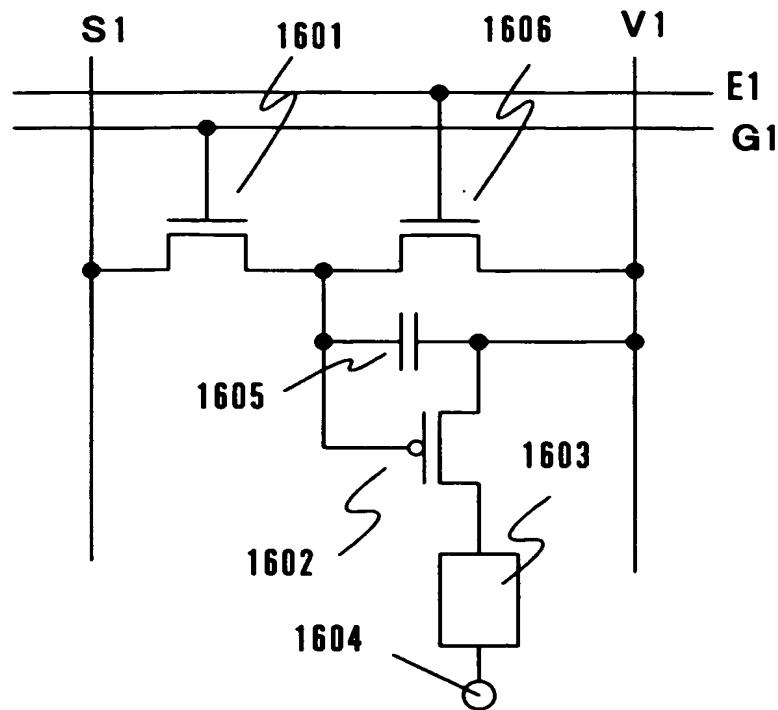
【図14】



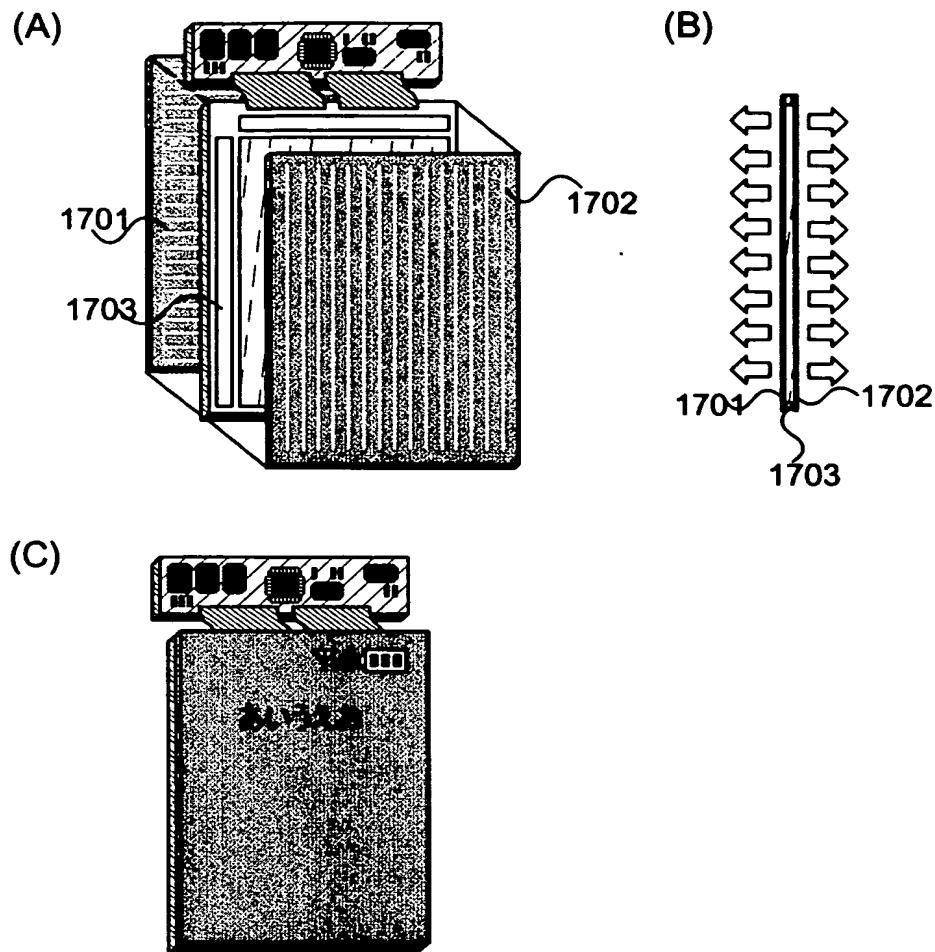
【図15】



【図16】

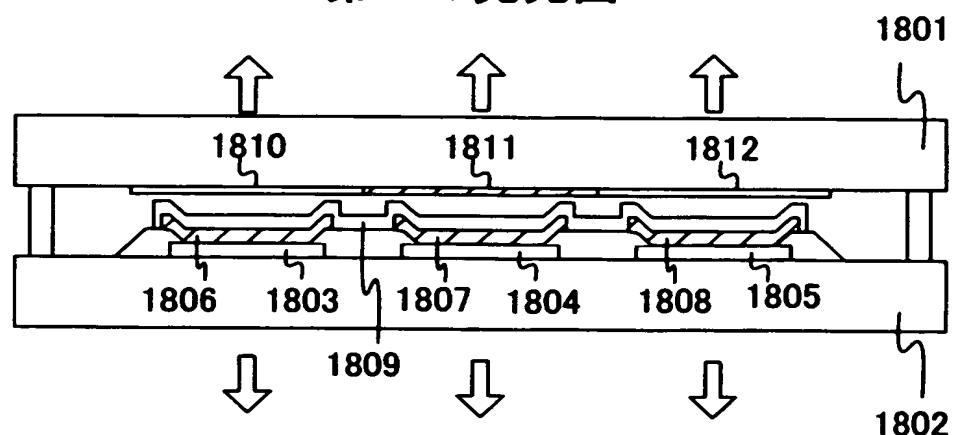


【図17】



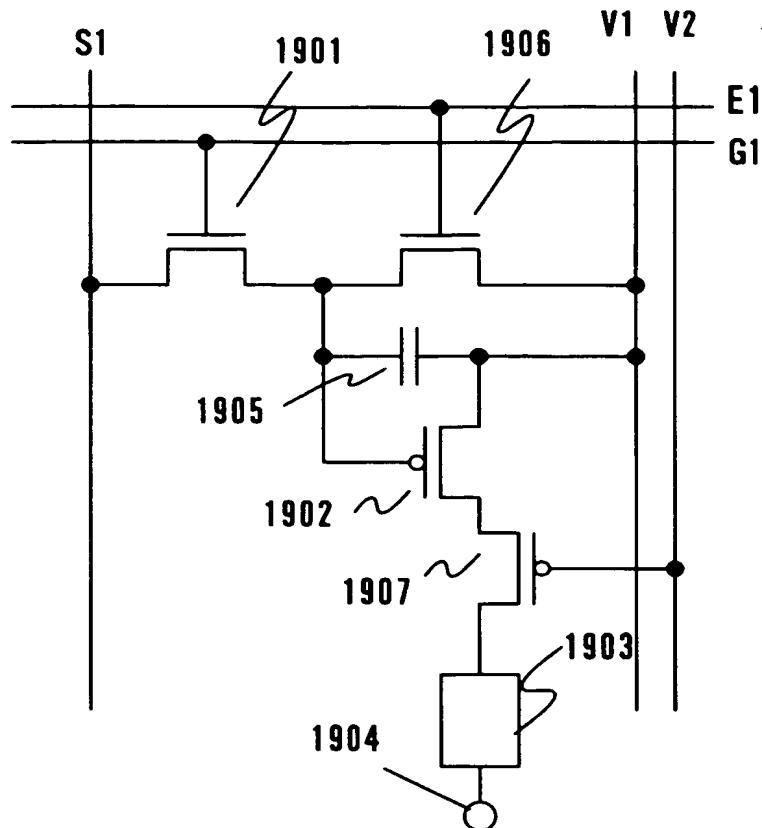
【図18】

第1の発光面

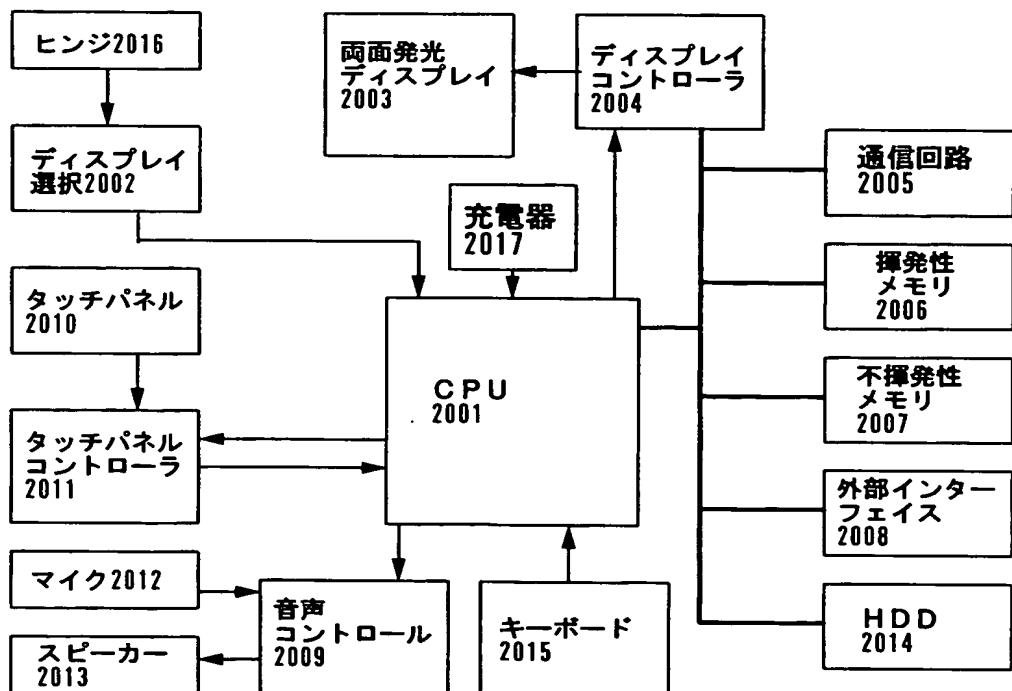


第2の発光面

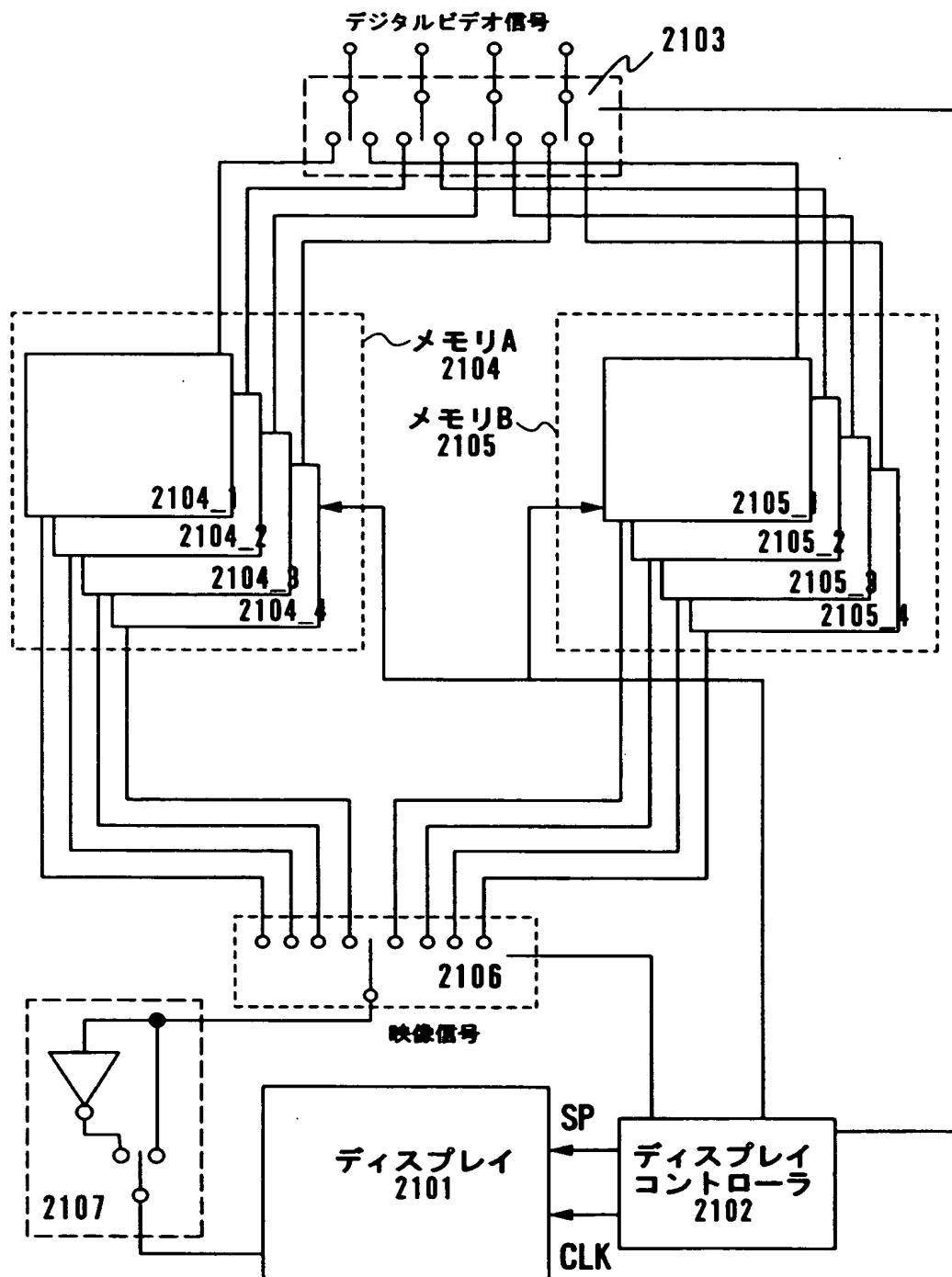
【図19】



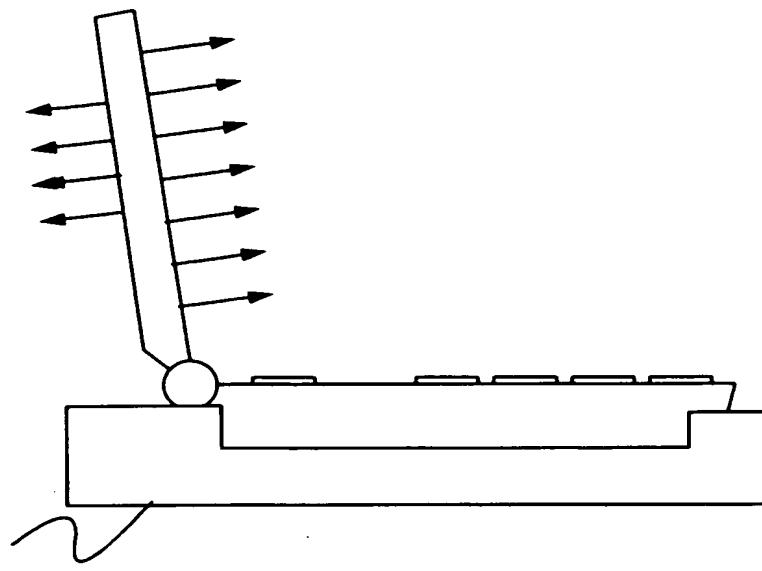
【図20】



【図21】



【図22】



充電器

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 サブディスプレイを有する表示装置において、ディスプレイを複数設けるため、表示装置の厚みの増加、部品点数の増加などの問題があった。

【解決方法】 本発明は、両面発光表示装置を用い、1つのディスプレイの両面を使用してメインディスプレイ、サブディスプレイを構成し、表示装置の厚み、部品点数の増加を防ぐことができる。また、本発明をタブレットPC、ビデオカメラなどに使用することによって、機械的な信頼性を向上させることが可能となる。

【選択図】 図1

特願 2003-105923

出願人履歴情報

識別番号 [000153878]

1. 変更年月日 1990年 8月17日

[変更理由] 新規登録

住所 神奈川県厚木市長谷398番地
氏名 株式会社半導体エネルギー研究所